

NPO法人
おやの劇場 松江センター

お父さんを
楽しむ

contents

- *お父さんも参加したくなるイベント
- *父親の子育てをもっと楽しくする情報を発信したい
- *父親の子育てに関する意識調査





お父さんが一緒だと子どももお母さんも楽しい。安心する。
お父さんはお母さんとはちょっとちがう見方、関わり方ができる。
お父さんと一緒に子育てしたら、お母さんはもっと笑顔になる。

お父さんたちの力を家族の中だけで眠らせておくのはもったいない！
お父さん同士が仲よくなったら、きっと何かおもしろいことができる。
お父さんたちが地域で子どもたちと関わったら、みんなもっともっと楽しくなる。

そんな思いから、この事業はスタートしました。



■お父さんも参加したくなるイベント	3
究極のそうめん流し	4
ウルトラパパの絵本と子育て	8
お父さんと観る舞台劇『おとうさんはウルトラマン』	10
忍者ごっこ お城をあそぶ！	12
旗取りチャンバラinげきじょっこまつり	16
お父さんと観る人形劇『あなたがうまれるまで』	18
■父親の子育てをもっと楽しくする情報を発信したい	21
プロに学ぶ通信づくり講座Ⅰ、Ⅱ	22
パパ通信発行のための作戦会議	23
■父親の子育てに関する意識調査	25
調査結果	26
■事業全体の流れ	48
■考察	50
巻末資料	
平成20年度 しまね協働実践事業「募集テーマ」	53
企画書【NPO法人おやこ劇場松江センター事業提案】	54
平成20年度 しまね協働実践事業「提案事業一覧」	58
平成20年度 しまね協働実践事業「採択事業一覧」	59

お父さんも参加したくなるイベント



父親自身も楽しめて参加しやすい家族向けイベントを6回開催しました。

イベント参加を通して、父親と一緒に過ごすことにより子どもも母親も楽しくて安心できることや、子どもと関わり合うことによって得られる喜びをお父さんたちに実感してもらいました。また、我が家族だけではなく他の子育て中の家族と共に過ごすことで、父親同士が子育てのおもしろさや苦労、感動などを共有する機会となることを目指しました。

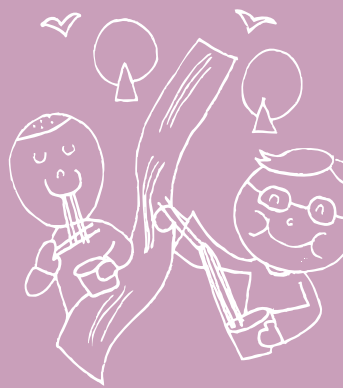
はじめは、父親参加について意識の高い家庭が母親主導で参加する割合が高かったのですが、回を重ねるうちに、複数回参加した父親同士やスタッフの間に自然と仲間意識が生まれ、共に取り組むことができました。

イベントの前後にも少人数の大人を対象としたさまざまな会を11回設定しました。対象となる父親は仕事も忙しい世代ですが、全16回の父親参加のべ人数は150名にのぼりました。

◆イベント一覧

	イベント名	担当	日時	場所	参加者
2008年	そうめん流し作戦会議	事務局	6月29日(日)	市町村振興センター	20名
	究極のそうめん流し	事務局	7月20日(日)	大田市久利町久利小山	約70名
	講師との交流会	事務局	8月23日(土)	市内居酒屋 根っこや	8名
	ウルトラパパの絵本と子育て	子育て支援部	8月24日(日)	松江市総合文化センター	105名
	講師へのインタビュー	事務局	//	松江市総合文化センター	6名
	プロに学ぶ通信物作り講座Ⅰ	広報部	8月31日(日)	松江市市民活動センター	13名
	プロに学ぶ通信物作り講座Ⅱ	広報部	9月15日(月・祝)	松江市市民活動センター	13名
	お父さんと観る舞台劇	鑑賞事業部	10月1日(水)	松江市総合文化センター	260名
	舞台劇を語る会	鑑賞事業部	10月5日(日)	松江市総合文化センター	7名
	パパが絵本を読んだら	財政部	10月5日(日)	松江市総合文化センター	約20名
	忍者ごっこ お城をあそぶ!	子どもサポート部	11月9日(日)	松江城 城山公園	62名
	忍者打ち上げ&作戦会議	子どもサポート部	12月5日(金)	市内居酒屋 炉端かば	18名
2009年	旗取りチャンバラ	子どもサポート部	2月1日(日)	くにびきメッセ	約80名
	お父さんと鍋を囲む会	事務局	2月14日(土)	おやこ劇場事務所	10名
	生命について考える講演会	子育て支援部	2月21日(土)	松江市市民活動センター	33名
	お父さんと観る人形劇	鑑賞事業部	3月8日(日)	島根県民会館	337名
	人形劇を語る会	鑑賞事業部	3月14日(土)	おやこ劇場事務所	5名

究極のそうめん流し



2008年7月20日(日) *10時~15時

概要

松江市から車で約1時間半、世界遺産石見銀山に程近い大田市久利町で究極のそうめん流しをしました。ちょうどこの日から猛暑に突入してしまい朝からどんどん気温が上昇する中でしたが、現地の方に教えていただきながら竹を切り出し、お父さんたちが力を合わせて流しそうめん台を作りました。子どもたちが竹工作をしたり遊んだりする時、大人は自然に我が子だけでなくみんなの子どもを互に見合うよい雰囲気でした。

見事にそうめんが流れ、ゼリーや山桃まで流れてきて子どもたちは大喜び。日常とは異なる空間と時間を満喫しました。

会場

島根県大田市久利町久利小山地区

内容

竹の切り出しから流しそうめん台・器・箸の製作まで、全部手作りのそうめん流し

参加者数

約70名(男性16名、女性13名、子ども31名、地元の皆さん)

当日スケジュール

- 09:00 スタッフ集合
- 09:45 受付開始
- 10:00 オリエンテーション
- 10:15 作業開始(竹伐り出し・笥製作・器&箸づくり)
- 12:30 流しそうめん・バーベキュー
あそび
片付け
- 15:00 解散



事前準備

- 5月20日(火) 14:00~ 打ち合わせ 5名(放牧の会・紹介者・スタッフ3名)
- 6月 7日(日) 午後 現地下見 4名(放牧の会・紹介者・スタッフ2名)
- 6月19日(木) 10:30~ チラシ作成打ち合わせ 3名
- 6月25日(水) 広報・チラシ配布開始
- 6月29日(日) 10:00~ 作戦会議 20名(父親9名・母親2名・子ども5名・スタッフ3名・県職員1名)
- 7月17日(木) 10:00~ 買い物・持ち出し品準備 4名

準備物

【おやこ劇場】

大ザル、ボウル、カメラ、蚊取り線香と皿、そうめん、そうめんつゆ、海苔、米、アンケート用紙、キャンプテーブル、日除けテント、マッチ、ごみ袋、布巾、紙やすり、看板、幟

【放牧の会】

大なべ、ガス口、大皿、ホース、なた、竹引きのこぎり、かなづち、薪、みかんしぼり器

【個人持ち物】

おにぎり、お好みの薬味、流すとおもしろそうな食品、マイ箸、水筒(お茶)、帽子・雨具・着替え等、工作用小刀、長靴、軍手、虫よけ(スプレー等)



参加者の感想

〈父親編〉

- 他のお父さんの行動力がすばらしく、ついていくのが大変でした。しかし、それらの活気よさが楽しさにつながったと思います。このようなイベントは、あまり決まり事がなく、好きなペースで物事ができる方が楽しいと思います。
- この時期にぴったりのいい企画であったと思います。ありがとうございました。近くに川とか滝とかがあるとベストだったのですが…。
- 開放的な場所を提供してもらい、子どもたちも開放的な遊びを見つけ、各自好きなことを自由にしたり、協力したり、楽しむ姿は楽しかったです。
- 家族で楽しい時間を過ごせてよかったと思います。そうめん流しも子どもも大人も楽しめてよかったと思います。またこういう機会があれば参加してみたいです。
- 皆さん、アットホームな感じで互いに見守りつつ楽しんでおられ、自分の子も次第に自分なりの遊びを見つけ楽しむことができた様子でよかったです。

〈母親編〉

- 家族で、竹の切り出しから自然に触れて貴重な体験ができました。公民館も借りれて、ちょっと休憩もさせてもらいました。子ども同士で遊ぶことも楽しかったようです。初めてお会いするお父さんに、どうお話しすればよいかとまどいましたが、お父さんたちの力で、竹の組み立てもよいできあがりです。一日楽しく過ごせました。
- 家族そろってのイベント参加は久しぶりで、いつもと違った楽しさがありました。自然っていいですね。
- 自然の中でのびのびと遊んだ後、楽しいそうめん流し。子どもの楽しそうな姿が見れてよかったです。そして竹を切るお父さん。こんなこともできるのかと感心しました。
- とても楽しかったです。なかなか個人では限界がありますが、大勢で参加して楽しめました。
- どんな風になるのかなとドキドキワクワクしていました。皆さん、とてもテキパキされていて、私はウロウロしていることが多かったのですが、来年はもっと皆さんのお力になりたいです。流し台を作るお父さん方が頼もしかったです。地域の方がたくさん準備してくださっていたのが、とても嬉しかったです。火を使って、焼き芋とかもって用意すればよかったナ。
- 夫は大満足で、子どもそっちのけで、何より本人が楽しんだようです。子どもも、よそのお父さんお母さんに目をかけてもらい、それぞれ楽しんだようですが、そうめん流しが一番人気でした。焼いたら面白そうな食品（パン生地）を忘れてしまい、とても残念でした。流したら面白そうな食品も、もっと持参すれば良かったと思いました。



アンケートについて

設問①：満足度

設問②：満足度100%未満の場合どう改善すべきか

設問③：誰と一緒に参加したか

設問④：特に満足度の高かった活動は何かを大人全員に聞きました（回収率100%）

- ① 満足度の平均は、男性100%・女性120%。
 - ② 改善点は、暑さ対策とゴミ処理についての合意。
 - ③ 両親と子どもの参加10家族。父親と子ども3家族。母親と子ども1家族。
 - ④ 満足度の高かった活動（複数回答）は、男性が1位：そうめん流し、2位：竹の切り出し・竹工作、3位：他の家族との交流。
女性は1位：そうめん流し、2位：竹工作、3位：他の家族との交流でした。
（ただし、家族との交流・他の家族との交流・地区の方との交流を合計すると、「交流」が男女共に1位）
- ③の「誰と一緒に参加したか」によって、他の設問の回答に差は出ませんでした。





担当者の感想・工夫したこと

父親の積極的な参加を促すイベントの第1弾はどんな活動がいいのか?? スタッフ周辺の男性の意見も聞きながら、やはり「お父さんはアウトドアでしょう」ということでそうめん流しに決定しました。企画段階から父親に参加してもらうことにより、さらに積極的に取り組んでもらえるのではないかと考え、事前にスタッフと父親の打ち合わせをしました。

集まった父親たちがどんな気持ちで何を考えているのか全くわからない中、おそるおそる作戦会議を開始。お互い知らない者同士がテーブルを囲んだ時から緊張感が漂っていました。周到に準備し過ぎることで父親たちを「お客さま」にしてはいけないと考え、ざっくりした計画を投げかけましたが、「あとはお父さんたちよろしくと言われても…」『パパ応援企画』というネーミングからしてよけいな世話「ふだん何も手伝わない親父を引っ張り出してやれと言われてる気がする」「頼まれればやってもよいが」「失敗したらカッコわるい」「なんで父親にこだわるのか」「チラシの文言が女性目線」と初っぱなから厳しい言葉が続出しました。

そこで、そもそもの企画の意図と事業の全容、さらに私たちスタッフの思いを語り協力を依頼しました。結果的には理解を得ることができた上に、父親から見た事業への意見もたくさん出していただき、大変有意義な会となりました。そして、「この事業で成果を出せるか否かは、お父さんたちとどれだけ語り合うかにかかっている」ということが私たちスタッフの心に沁みました。

そうめん流し参加者の満足度は、猛暑や会場が遠方であったこと、活動内容の難易度の高さなど、数々の悪条件にも関わらず特筆に値する高いレベルでした。それは、子どもたちの輝く笑顔からも伝わってきました。



2008年8月24日(日) *10時〜11時45分

概要

読み聞かせに関心を持つ子育て中の父親を対象に、読み聞かせ講座と絵を描くワークショップを開催しました。講師は、子育て体験のある宮西達也氏でした。

第1部の読み聞かせ講座では、講師自身の子育て体験に基づくお話や父親が読むのにふさわしい絵本の紹介でした。講座の中でも読み聞かせもしていただきました。第2部のワークショップでは、子どもが父親、母親、講師と一緒に絵を描き楽しみました。絵本の中に出てくるウルトラマンやバルタン星人に子どももおとなもわくわくしながらグループ毎に素敵な絵が仕上がりました。その後、講師へのインタビュータイムを設けましたが、これは年度内に発行予定の「パパ通信」のための取材という目的で実施しました。父親2人、県担当者、通信づくり講座講師に入ってくださいました。

会場

松江市総合文化センター 会議室

内容

第1部 お父さんのための読み語り講座 (1時間)
第2部 ワークショップ お父さんと絵を描いてみよう! (45分)

参加者数

105名 (男性22名、女性38名、子ども26名、託児19名)

当日スケジュール

- 09:00 スタッフ集合 (他に今井書店・託児の会)
会場設営
- 09:45 受付開始
- 10:00 第1部 講座
- 11:10 第2部 ワークショップ
- 11:45 書籍販売&インタビュータイム (別室)
- 12:10 サイン会
- 13:00 昼食会 (講師とスタッフ)



講演要旨

僕の本は自分の子ども時代のことをヒントにして書いている。嬉しかったこと、悲しかったこと、お母さんにだっこしてもらった時や、お父さんにほめられた時、ペットが死んでしまった時、体育祭や文化祭で仲間とがんばった時の気持ち。

今は、目に見えない、優しさや思いやりが大事な時代。それなのに、人の悲しみや心の痛みに気づかない自己中心的な人が増えている。テストの点数を1点上げるより、大事なものは心。土台に優しさや思いやりがしっかりある子は、目に見える物をちょっとしか持っていないなくても必ず幸せになれる。人と比べることなく一所懸命生きることが大事。人の長所を見たらほめ、短所を見たら助けてあげよう。それが全部自分の成長につながる。

僕の4人の子どもはもうみんな大きくなったが、昔はたくさん子育てをした。お父さんたち、子育てしないのはもったいないですよ。ただ、苦手なことを無理してやると嫌いになるから、好きなことをやればいい。子どもが大きくなるのは、本当にあっという間。だから、親はその子自身をしっかり見ていてはいけない。しっかり見ているから叱れるし、ほめることもできる。誰かと比べる子育ては的を外して行く。自分に合った子育てをしてください。その子に合った愛し方をしてください。

絵本は子どもにも理解できる短い言葉で書く。配列ひとつ間違っているとわかりにくくなり、感動できなくなる。子どもから大人まで理解でき感動できるのが絵本。特にお父さんたちに読んでほしい。読み聞かせはお父さんじゃないと面白くない本もある。絵本の絵は動かないし、お父さんが読んでページをめくらなくてはストーリーが運ばない。でも実は心の中で絵は動いていて、その絵を動かしているのはひとりひとりの感

性。ひとりひとりの感性がBGMも流している。だから絵本は感性を育てる。絵本でコミュニケーションを広げてください。



父親の感想

■みやにしさんのおかげかも？

保育園の次男は、うちにあるたくさんの絵本の中、みやにしさんの本がいちばんのお気に入りです。中でもティラノサウルスのお話「わたしはあなたをあいしています」が好きで、寝るときに何度も読むことをせがみます。そのみやにしさんが「ウルトラパパの絵本と子育て」というテーマで松江に来られるということで、次男と小学生の長男とともに3人で楽しみに参加してきました。

第1部、お父さんのための読み語り講座では、軽妙な語り口のみやにしさんに、子供たちからは「お笑い芸人みたいだね」との評。第2部のワークショップ、お父さんと絵を描いてみよう！では、みやにしさんが4枚連ねた模造紙に、道の下書きをして、子供たちが、その上に好きに絵を描いていくというプログラムでした。完成作品とともに、みやにしさんと記念写真をとれたことが一番の思い出に。

みやにしさんは4人お子さんがおられるそうですが、講演あとのサイン会で私たちの番になったとき、もしかしたらもうすぐ子どもが生まれるかもしれません、という話をしたら、「えっ」という顔をしながらも、ウルトラマンの横顔に、生まれてくる赤ちゃんへ、という言葉を書き添えてくれました。

この日、8月24日の17時9分。予定よりも2週間早く、私と同じ誕生日に4番目の息子が誕生しました。みやにしさん、ありがとう！

(小3、5歳、3歳、0歳の男児をもつ父親・田中隆一さん)

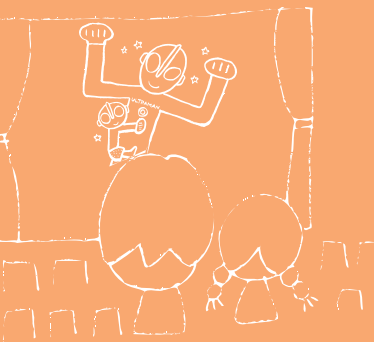
担当者の感想・工夫したこと

半日という限られた時間の中少し欲張ったイベントになったかもしれませんが、松江市内ではまだ珍しい父親向けの読み語り講座で、市内の書店にも関心をもっていただけでした。当初、書店内のスペースで実施も考えていましたが、スペースの問題もあり場所を市立図書館のある文化センターにて実施しました。話を聞くだけでなく、そこから絵を描くワークショップにつなげたことで、また別の楽しみ方も同時に味わうことができたのではないのでしょうか。

当日会場に小学生の姿が多いのを見て、講師が子どもにも聞ける内容に変えていただきました。



『おとうさんはウルトラマン』 お父さんと観る舞台劇



2008年10月1日(水) *18時30分〜20時10分

概要

けなげに頑張る“おとうさん”たちにエールを送ろうと劇団が制作した舞台劇『おとうさんはウルトラマン』。

普段公演の会場でみることの少ないお父さんたちをぜひ誘いたいと、この作品を選びました。曜日もノー残業デーが多いと聞き、水曜日に。また作品を観たあと感想を聞きあう「語る会」も、普段は平日の午前中にお母さんたちが集まるのですが、この度は日曜日に、おやこ劇場が出店した市民文化祭のテントの中でお父さんも交えておこなうことができました。

会場

作品鑑賞：松江市総合文化センター プラバ大ホール

作品情報

創造団体：劇団うりんこ

原作：みやにしたつや

脚本・演出：つげくわえ（人形劇団「くわえ・ぱべっとステージ」代表）

主人公たろうのおとうさんは、怪獣とたたかうウルトラマン。いつも忙しくてなかなか休みがとれない。「久しぶりに休みをとって家族で遊園地へいこう！」とたろうと男と男の約束をしたおとうさん。ところが待ちに待ったお休みの日、出かけようとしたまさにその時、怪獣が街にあらわれたというニュースが。

正義の味方ウルトラマンとうさんは、たろうとの約束を断念、怪獣と闘うために街に向かう…!!

お父さんと、そして家族で観てもらいたい作品。観終わった子どもやお母さんが、「家族のためにいつもがんばってくれているお父さん、ありがとう」と伝えたい、パワフルで楽しくて、でもちょっぴり切ない舞台劇。

参加者数 260名（男性35名）

当日スケジュール

- 15:30 劇団・スタッフ会場入り
- 18:00 劇団とスタッフの打ち合わせ
- 18:30 開場
- 19:00 開演
- 20:10 終演・撤収開始
- 20:10 撤収完了

事前のとりのり

9月23日（祝）『おとうさんはウルトラマン』読み語り会
今井書店 田和山センター店 児童書コーナーにて



参加者の感想

〈子ども〉

- 切ないところもたのしいところもおもしろいところもすべてが入ったお話でした。お父さんのすばらしさを知りました。
- 楽しかった。一番おもしろかったところは、遊園地で遊んでいるところがおもしろかったです。
- じょうずで、びっくりしました。
- バルタンパパの“奥の手”にやられた…。お父さんはすごい！かっこいい！

〈母親〉

- もうサイコー!! おとなも子どももくぎづけ!! でした。子どもと一緒に観れて本当に幸せ♥うりんこさん、ありがとう。

〈父親のコメント〉～公演は平日でしたが、仕事帰りに準備や後片付けなどのお手伝いをしていただいたお父さんのコメントです～

プラバホールで「お父さんはウルトラマン」という劇をするので手伝って欲しいと妻に言われ、仕事の帰りに準備から参加させていただきました。子どもと親が一緒になって準備をし、受付や後片付けをするのはとても楽しい経験でした。

劇も子どもと一緒に楽しめましたし、何よりその劇について何日も子どもと楽しく話ができよかったです。

また、おやこ劇場に参加されている皆さんはとても話しやすい方ばかりで、準備の前の食事中に少し口が軽くなり、ついつい長々と話をしてしまいました。

また、同じような機会があったら参加させてもらえると嬉しいなと思います。

(8歳女兒・6歳女兒・3歳女兒を持つ父親・木村忍さん)

準備物

- ◆2008年10月5日(日) 13:00～
- ◆松江市総合文化センター プラバ前広場 市民文化祭テントの中にて
◎『おとうさんはウルトラマン』を語る会
- ◆参加者数：7名(内男性2名)
- ◆内容：日曜日の市民文化祭のテントの中で、『おとうさんはウルトラマン』を「語る会」をおこないました。劇を観たお父さんが2名と男子学生が1名参加してくれました。「おとうさんは大変だなあ。劇とはいえ、どこの家庭にもある風景だった。」が、まずお父さんの第一声でした。「(ウルトラとうさんが) 遊園地に行く約束をしていたのに、仕事でいけなくなった場面が、切なかった。」とも。「“お父さんみたいになりたいな” と太郎君に言って欲しかったのに言ってもらえなくてウルトラとうさんは元気がなくなり、戦いに負けてしまった。太郎君が“お父さんみたいになりたい!” と言ってくれたとたん元気になる戦いに勝った。お父さんってそういうものかなあ…」という声も。子どもと一緒に劇を観た後、子どもと劇の話ができることが嬉しかった、という言葉が印象に残りました。

担当者の感想・工夫したこと

おやこ劇場での普段の公演は、お母さんと子どもで来られることが多いのですが、この「おとうさんはウルトラマン」は、ぜひお父さんも一緒に観ていただきたいと、会員にも呼びかけました。また水曜日は“ノー残業デー”にしている企業や役所も多いということで力を得、呼びかけにもますます拍車がかかりました。その甲斐あって、当日はお父さんの姿が普段の公演の5～6倍の30人以上。びっくりでした。

事前にウルトラパパなど登場人物(!?)のお面キットを会員の子どもたちに配り、色を塗って公演当日につけてきてね、と伝えてありましたので、ウルトラパパやバルタン星人のお面をつけた子どもたちが続々登場!! なかには、お父さんがつけていたりで、平日の夜にもかかわらず、家族揃っての楽しい公演日となりました。

はてさて、ひとつ、痛恨のミスが…!! スタッフのバタバタでこの日の写真が一枚もないのです。とほほ。

次回からは、お父さんに写真係をお願いして、記録は忘れず撮ろうね、と心に誓い合いました…。





概要

申し込み者の自宅に、忍者からの矢文が届くところから始まり、気持ちを当日へ盛り上げていきます。活動は、学年別の男女別に配慮した、こども4名、大人のなかま忍者1~2名のチームで行います。劇団がなりすました影忍者に見つからないように、敵城として設定した場所（松江城周辺）に忍び込み、情報を集め、謎を解いていく活動ですが、よく考え、よく会話し、グループの結束がなければ、謎解きができないようになっています。高低差のある城山が舞台だったのでよく動き走りもしました。謎解き後は、おとな対子どもで旗とりチャンバラをしました。新聞で作った剣で真剣に戦いますが、子どものパワーを感じることができました。

この活動では、大人のなかま忍者がいかにか子どもの活動のじゃまをしないか…がポイントになりますから、おとな忍者になる人は、事前にワークショップに参加し活動に備えることが大切です。

会場 松江城、県民会館多目的ホール

当日スケジュール

- 09:30 県民会館大人の参加者のみ全員集合・打ち合わせ・ほぐしのワーク
- 11:30 一時解散 昼食をとるなど
- 13:00 参加者（こども+大人）全員集合説明
- 13:30 忍者参上ののぼりを掲げ、いざお城へ出発！
- 14:00 松江城松江城周辺にて忍者修行
- 15:00 旗取りチャンバラ 大人vs子ども
ルール：新聞の剣で打てるのは膝から下のみ。当たればその場でしゃがみフリーズ、仲間のタッチで復活。攻防で敵陣地に攻め入り、旗を取る
- 15:30 片付け
- 16:00 まとめの会
- 17:00 解散

事前準備

- 6月14日(土) アフタフバーバン須貝さんと会場（城山）の下見会
- 7月15日(火) サポート部打ち合わせ
- 8月22日(金) 一緒に取り組む他団体スタッフと打ち合わせ（城西プレーパーク）
- 9月22日(月) 矢文と巻物の試作・忍者募集とチラシ印刷
- 9月28日(日) 矢文40個と巻物55個製作完了。新聞紙剣30製作。
協力…毛筆：舟木泰子・佐次田希、竹：伊藤礼美
畳の縁：竹内畳店
- 10月28日(火) サポート部打ち合わせ 矢文発送作業
- 11月7日(金) アフタフバーバン須貝さん・金子さんとお城の下見、最終打ち合わせ



準備物

矢文（竹串と紙で作った招待状のようなもの 参加家族分）・新聞紙の剣（3枚を丸めてテープでとめて作る 参加人数分）・ホワイトボード×1・巻き物（竹を芯に和紙で作る 参加人数分）色紙手裏剣（幼児用）・新聞紙（1ヶ月分）・仲間集めカード（10種類の絵柄）・アイロン・アイロン台・風呂敷90×90くらい（用意できない子の分）・布ガムテープ（名札用 学年で色を変えても良い）・ペン（チビた鉛筆が良い 人数分）・A4の紙20枚と、色紙4色を20枚ずつ・参加者名簿（緊急連絡先をセットにして男女、学年ふりがな明記一週間前にアタフタにfax）・水分補給のもの（忍者は水筒を持たない。本部に給水場を設けジャグと紙コップを置く）・和太鼓1（ばちと台）・小さいダンボールか箱（手裏剣を入れる）

参加者数

おとな62名（男性10名、女性9名）、小学生43名、スタッフ9名（内：男性3名）



参加した子どもの感想

- 楽しかったです。あん号もとけてよかったです。またやってみたいです。（小2男児）
- ふろしきのまき方が忍者というかんじでおもしろかったです。忍者は身体より心得の方がだいじなんだなあと思いました。（小4女児）
- 修行でかくれたりかげ忍者がむずかしかったです。「すてきな松江」を歌って「おみごと！」だったからよかったです。チャンバラも遊べておもしろかった。

（小5男児）



父親の感想

「お城を遊ぶ、忍者ごっこ」に準スタッフとして参加しました。参加型企画に興味があったので、軽い気持ちで手伝いを申し出ました。「城」「忍者」→「忍者赤影？」と連想が広がりました。約半年の準備期間は、家族で小道具作りなど若干の苦労はありましたが、子どもにはその作業も含めて良い思い出となったようです。お断りするほど参加希望があったと聞いたときには、子どもたちの期待の大きさを感じました。この企画は、お父さんの子育て参加事業ではありましたが、実際は「子育て」の部分意識しませんでした。自身の子どもの頃を思い出しながら、子どもとのコミュニケーションをゆっくり楽しみました。何か一つのことと一緒に取り組むことが意義深いことと、改めて実感しました。あの松江城で忍者ごっこができたことは特別な思い出となり、参加できて本当によかったと感じています。

(小4女兒、5歳男児をもつ父親 福田幸弘さん)



担当者の感想・工夫したこと

かねてより「松江城を舞台に、親子で一緒に楽しめる活動をしたい」と思っていましたので、この活動を“父親との遊び”に結び付けようと考えました。「お城で忍者」は非常にイメージしやすかったようです。

しかしながら、おとな忍者として参加するためには、気持ちをほぐして子どもの中に溶け込む必要があります。そのため、半日は「おとなのためのほぐしのワーク」に参加してもらう必要がありました。子どもとの活動を含め、一日通して都合がつかないと参加できないという制限がありました。そのためでしょうか。父親のおとな忍者を確保するのが少し難しくなりました。逆に青年（プレパパ）の参加が増え助けられました。

また、企画を成功させるために現地の下見、事前打ち合わせ、製作をていねいに取り組みましたが、それが参加者の満足度につながったようです。



おとな忍者VS子ども忍者！ 旗取りチャンバラinげきじょっこまつり2008



2009年2月1日(日)
*13時45分～14時15分

概要

「げきじょっこまつり」は今回で第27回目となります。近年では1500人を超える親子が来場する恒例のイベントとなっていますが、ここのところ来場する父親の姿が急増し、準備や当日の運営・片づけまで関わってくれる父親も年々目立つようになっています。しかし、母と子が積極的に楽しんでいる脇で荷物持ちや末っ子の子守をしているという場面も多く、父親自身も楽しめるイベントにすることが課題となりました。

そこで、父親たちが楽しめて子どもたち母たちにも歓迎され、またその姿を来場者に見てもらえるよう、お父さん企画のお店を出してもらうことにしました。お父さんたちがどんな店を出したいのかわからず「焼き鳥とビールでも売るのがかな？」などとスタッフで言い合っていました。お父さんたちから出たアイデアは、11月の「忍者ごっこ」の最後に大人対子どもで戦って惨敗した「旗取りチャンバラ」の雪辱戦でした！

会場 くにびきメッセ大展示場

当日スケジュール

09:00 げきじょっこまつりスタッフ集合
10:30 ドン券バザー 開始
11:00 遊びのコーナー・模擬店・日用品バザー 開始
12:50 ステージプログラム 開始

13:15 旗取りチャンバラ担当者 集合・準備・会場作り
13:30 参加者集合
13:45 旗取りチャンバラ開始
ルール説明(デモンストレーションつき)
最大5分間×3セット
14:15 旗取りチャンバラ終了

14:15 ステージプログラム 続行
15:00 全プログラム終了 撤収
16:00 スタッフ解散



事前準備

- 5月20日(火) 14:00～ 打ち合わせ 5名(放牧の会・紹介者・スタッフ3名)
- 12月5日(金) 19時～ 忍者ごっこ振り返り18名
(子どもサポート部員5名・子ども7名・父親2名・青年・会員1名・スタッフ2名)
於：市内居酒屋 炉端かば
- 12月13日(土)午前 担当者との打ち合わせ(子どもサポート部員1名・スタッフ2名)
- 1月12日(月・祝) 15時～ 打ち合わせ10名
(子どもサポート部員・父親2名・げきじょっこまつり副実行委員長・スタッフ2名)
- 1月15日(金) 10時～ げきじょっこまつり実行委員会(実行委員・スタッフ2名)
- 1月22日(木) 14時～ おとな忍者Tシャツ・ロゴマーク染め(会員6名・スタッフ2名)

準備物

新聞紙の剣100本、子ども忍者用はちまき100本、旗、おとな忍者用Tシャツ28枚、風呂敷



参加者数 おとな16名（父親8名、青年4名、学生4名）、小学生約65名



父親の感想

■旗取りチャンバラに思う

私が子どもの頃は今のように家庭内で楽しめる娯楽の乏しい時代で、遊びと言えば専ら地域の子ども集団で遊ぶのが常であった。文字通り1年生～6年生までの異学年集団である。遊びの内容は様々だが、朝から晩まで時を忘れてよく遊んだものだ。異学年と言うと、一見皆が満足して楽しむのは難しそうだが、これが意外と上手に遊ぶのだ。上級生は下級生をやり、下級生は上級生に見守られながら必死でついていこうとする。特に各々の個性や能力をよく把握した最上級生の采配には見上げるものがあった。

さて、本題の旗取りチャンバラであるが、これまた異学年というより大人も交えた異年齢集団の実に面白い遊びである。大人はなかなか勝てない（目下5連敗中）から勝とうとして面白く、子どもに至っては今のところ大人を打ち負かして良いストレス発散(?)程度だろうが、これが苦戦したりなかなか勝てないとすると、チームワークや戦略が必要となります面白くなって来る筈だ。だが、こういう大人も子どもも本気で楽しめる集団遊びの場はなかなかお目にかかれるものではない。そういった意味では、この企画は画期的だったのではと思う。

最後に、この企画に参加させていただいて何よりも良かったことは、他愛もない子どもとの戯れ事を通して、子どもたちとは勿論、大人同士でも互い声をかけ合い、語らいのきっかけとなったことである。おそらく、次にやる時は、もっと濃密な軍議が開かれることだろう。そんな気がする。
(ニックネーム ☆&☆パパ)

担当者の感想・工夫したこと

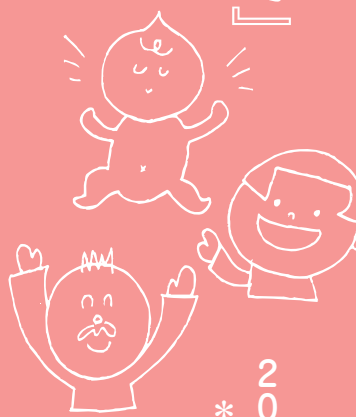
お父さんたち自身の口から「こんなのやりたいんだけど…」とこの企画が持ち出された時、「そうめん流し」以来積み重ねてきた父親同士のつながり、また父親とスタッフとのつながりの賜物だ〜と、とても嬉しく思いました。子どもサポート部のメンバーを中心に、お父さんたちの思いを大切に企画を成功させるために知恵を出し合い、準備を重ねました。

これまででは、バザー・模擬店・遊び場など個々に楽しむタイプのプログラムが多く、この、数十人も人間が、子どもも大人も入り乱れて一緒に遊ぶという大がかりな企画は初の試みでした。適切な広さや人数はどれくらいか、ケガなく楽しむためにどうルールを周知させるか、子どももお父さんもその気にさせる忍者の扮装はどうか、など手探りでした。

子ども忍者は小学生限定だったので、就学前の子どもたちが羨ましそうに周りを取り囲み、母親たちや参加していない父親たちも興味深そうに見物しているのが印象的でした。「子どもたちに負けて悔しい！今度こそ勝ちたい！」というお父さんたちの思いが広がり、父親同士の連帯感が感じられました。恒例行事になりそうです。



お父さんと観る人形劇『あなたが生まれるまで』



2009年3月8日(日)
*14時45分〜、16時30分

概要

子育ては大変なことも多いけれど、子どもがもたらしてくれる幸せを、お父さん・お母さんにもう一度感じてほしい。そんなことを願いつつ、この作品を選びました。実は5年半前にも同じ作品を観ており、ぜひお父さんにも観て欲しい作品と思い、日曜日の2回公演としました。当日の会場には、親と子それぞれの小さい頃の写真を数組貼り、「どれとどれが親子でしょう!」と組み合わせせていく楽しい企画や、「生まれてきてくれてありがとう♡」の子どもへのメッセージカードを書いてもらって掲示するというほのぼの企画もおこないました。

会場

作品鑑賞：島根県民会館多目的ホール

作品情報

創造団体：くわえ・パペットステージ・人形芝居ひつじのカンパニー

キャスト：つげくわえ・北村直樹

原作：ジェニファー・デイビス (小学館)

脚色・演出：北村直樹・つげくわえ

お母さんのお腹の中の子どもの成長をとおして、生命の不思議さと大切さをコミカルかつファンタジックに描いた人形芝居。お母さんのお腹の中で育っていく子どもと、親として育っていくお父さんとお母さんのミラクルストーリー。「ひとつの命を産み出すという、もっとも素晴らしい事をもういちど見つめ直してほしいと思っています。命の不思議さと体験してほしいと思っています。そして、たくさん子どもたちに“うまれてきてくれてありがとう”というメッセージを伝えたいと思っています。」この作品をつくり、育て、演じ続けている、つげくわえさんの言葉です。

参加者数 337人 (内男性25人)

当日スケジュール

10:00	劇団・スタッフ会場入り
13:15	1回目 打ち合わせ
13:45	1回目 開場
14:00	1回目 開演
15:00	1回目 終演
15:45	2回目 打ち合わせ
16:15	2回目 開場
16:30	2回目 開演
17:30	2回目 終演
18:30	撤収完了



事前のとりくみ

2009年2月21日(土) 14:00~16:00

●河野美江氏講演会

子ども達の心とからだの声を聴こう

～「生まれてきてくれてありがとう」を伝えるために～

○市民活動センター1階 展示ブース

○参加者数 33名(男性2名・女性31名)

○内容

- ・DVD「スタートは産まれるところ」視聴
- ・講演“若者を取り巻く性の状況”“どうしたら若者の性行動を賢明なものにできるのか。性を育むには?”
- ・ロールプレイ 低学年の子どもを親の会話2パターンをペアで読み合い感想を言う。
- ・質疑応答・アンケート記入



ご夫婦で来ていただけるよう、参加費の“ご夫婦割引”を設定してみました。ご夫婦二人で仲良くロールプレイされている様子がとても素敵でした。大切な問題を両親で考えることのできる良いきっかけとなったことでしょう。“基本はやはり親子の信頼関係ですね。”“性のことを親子で話題にできる家庭の雰囲気作りが大切ですね。”“愛しあえることの幸せとお互い相手を大切にすることを伝えていきたいと思います。”と、参加者は河野先生の思いをしっかりと受けとめて持ち帰ることができました。



参加者の感想

〈子ども〉

- わたしが生まれるまでそんなに楽しみにしているんだと思いました。
- 生命の大切さや生命の誕生の感動がぎゅーっとつまっていました！ よかったです！ありがとうございました！
- 自分もこういうふうになんか生まれてきたのかな？と思いました。
- 私が生まれるということはお父さんとお母さんにとってうれしくて楽しいものだと思っていたけど、けんかをしたりしてたいへんだったんだなあということがわかりました。おもしろくてすばらしいげきでした。

〈母親〉

- 出産の時の感動を再び味わうことができました。いてくれるだけでありがとう…という気持ちを思い出すことができました！
- とても分かりやすく、たのしく見させていただき、所々、そして最後はなぜか自分でもびっくり涙出ました。
- 本当に命の尊さ、ありがたさ、大切さ、想いがわきあがって感じました。沢山のいろんな人に見てほしい、そんな、本当にすばらしい作品でした。
- 3ヶ月前に出産したので、おなかの中での赤ちゃんとお話していた時のことを思い出し、感動でした。ありがとうございました。
- とてもとても感動しました。そしてとーっても笑いました。こどもと家族になれて幸せだなあ～と、とっても思いました。

〈父親〉

- みている子どもの表情がとくによかったですね。



父親の感想

ユーモラスで暖かいお二人の演技にひきこまれました。笑えばなしの1時間でした。それと同時に記憶が蘇ったひとときでした。

長男妊娠中は夫婦ともに仕事に追われ、あっという間に出産のときを迎えました。

そして今年、二人目の赤ちゃんが我が家にやってきました。この10ヶ月間では、上の子のヤンチャ、妻の入院、いろいろなことがあったけど、家族と向き合えた10ヶ月でした。

この作品を家族4人で見られて良かったと思っています。長男は何を考えているのだろう？自分のこと？妹のこと？と頭の中をのぞいてみたくなりました。

ありがとうございました。

(3歳男児・0歳女児をもつ父親・福田健一さん)

語る会

◆2009年3月14日(土) 10:00～ おやこ劇場事務所にて

◆『あなたが生まれるまで』を語る会

◆参加者数：5人(内男性1人)

◆内容：土曜日の午前、『あなたが生まれるまで』の語る会を事務所にておこないました。話題は、舞台の話から始まって、“我が家の出産秘話”まで。“観ている子どもたちの表情がとてもよかったですね！”とお父さん。子どもが生まれた時、子育て手伝わなきゃ、と張り切りましたか？という質問に、“子どもの世話は、奥さんにあれこれ手ほどきを受けて、沐浴とかミルクあげたりがんばりましたよ。ミルクの後、上手くげっばをさせることができると嬉しくてね。”と。父親になった、という実感はいつ湧きましたか？という質問には、“奥さんに、病院ではじめて子どもを抱いた時の嬉しそうな顔は今までで一番だったと言われました。”“やはり子どもをはじめて抱っこしたとき、父親になったと実感しましたね。”と、丁寧に思い出しながら答えてくださいました。

担当者の感想・工夫したこと

今回の公演も、お父さんと一緒に、またご家族揃って観ていただきたいと、お父さんを積極的にお誘いしました。

当日は、20人以上のお父さんが会場へ。劇中のお父さんとお母さんのコミカルなやりとりに大笑いしたり、子育てがんばろう！の気持ちが少々空回り気味のお父さんに失笑したり。最後、赤ちゃんが“ぼく、うまれるよ！”と、産道を一生懸命に昇っていく場面では、会場がシーンと感動につつまれました。終演後も、「生まれてきてくれてありがとう♡」メッセージや感想を書いてくださるお父さん・お母さんで、ロビーが賑わいました。

『あなたが生まれるまで』によって
お父さん、お母さん、子供がそれぞれの気持ちで育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

「あなたが生まれるまで」による
お父さん、お母さん、子供がそれぞれの気持ちで育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

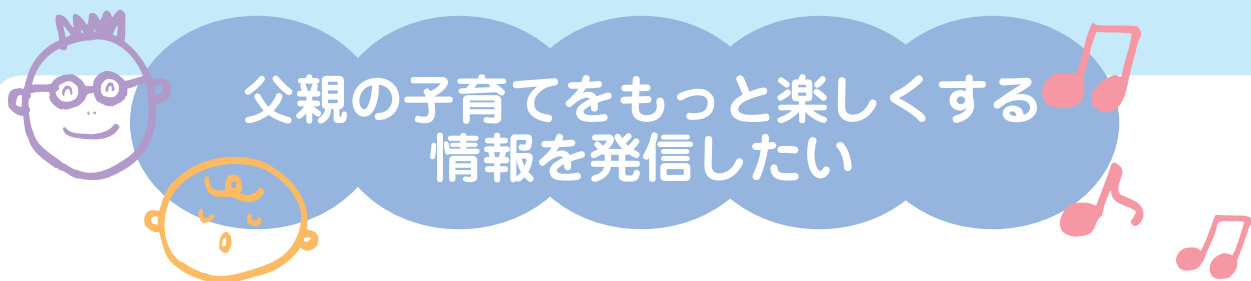
お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。

お父さん、お母さん、子供さんがそれぞれに育ちました。お父さんの気持ち、お母さんの気持ち、子供さんの気持ち、それぞれがそれぞれに育ちました。



子どもと一緒に過ごしたい、子どもに関わりたいと感じている父親が増えていることが次章の意識調査の結果から見えています。しかしながら今までの子育て支援事業といえども母親と子どもが対象になるものが多く、父親を対象とした事業はまだ駆け出したばかりといえます。近年、県内の子育て団体や行政も父親と子どもを対象にした事業を立ち上げていますが、父親の子育てに関わろうとする意識を向上させ、広めていくには更に“情報発信”するのを感じます。

そこで、今回は情報発信のツールとして、①父親が手にとって読める子育てに関する「パパ通信」、②今回の事業をまとめた「報告書」③ホームページの3つを考えました。主な対象を、通信は特に父親やその家庭、報告書は子育て団体や行政と想定しました。

●パパ通信

通信を作成の基礎を学ぶ講座「プロに学ぶ通信づくり講座」を2回実施し、キーパーソンとなる父親の参加がありました。

次のステップとして、パパ通信発行のための作戦会議を実施しました。作戦会議では、子どもとの関わりについて話題で楽しく交流できましたが、通信発行の動機付けにはならず年度内の通信発行は見合わせざるを得ませんでした。イベント実施、意識アンケート調査を含む10ヶ月間の取り組みではなかなか困難でした。

●報告書

先行事例として【なるべく詳しく情報を載せる】、【スタッフの工夫したことを盛り込む】【失敗も書き記す】という点に配慮し、今後県内での広がりを期待したいと思います。

県との協働事業の観点から、企画にいたるまでのテーマ設定等も資料として盛り込みました。

●ホームページ

各イベントの報告をはじめ事業報告書もアップし、父親の子育てに関わる情報を伝えていきました。

今後も継続していきます。

プロに学ぶ通信づくり講座Ⅰ、Ⅱ

【Ⅰ】2008年8月31日(日) 10:00~12:00

講師：矢島浩三氏(メディアネットワーク(株) コピーライター)

【Ⅱ】2008年9月15日(月・祝) 9:30~12:30

講師：頼田直真氏(山陰中央新報社 論説委員・編集委員)

会場 市民活動センター506

内容 通信を作るために必要な知識・技術・心得などをプロに学ぶ講座

I. 編集入門

「おお、ミニコミというやり方か！」と題し、通信を作っていく上でヒントになる発想、言葉の見つけ方、その表現の仕方や編集の基礎についての話。

II. 9月までに実施した事業をもとに作ったタブロイド版をもとに、見出しのつけ方、デザインの仕方等を具体的に学ぶ。

参加者数 I. 13名(男性6名、女性7名)

II. 13名(男性5名、女性8名)



父親の感想

新聞の編集のプロの話は、よい勉強になりましたが、そもそもパパ通信って、誰が書いて、誰に対して、配布するのか、というのがはっきりしていない中での講座だったので、なんなのかなあ、と思いました。

(小3、5歳、3歳、0歳の男児をもつ父親・田中隆一さん)

担当者の感想・工夫したこと

今まで通信の発行等の経験のある人でも、実際プロに学んだことはなかなかないと思います。

今回はよりよい通信を目指すために広告代理店のコピーライターの方と新聞社の編集委員の方に講師をお願いしました。2回の講座内容は変え連続参加を目論みましたが、忙しい父親を対象に連続参加は困難でした。

また、父親の通信作成の動機付けがない段階で講座を開催したので、明確な目的を持ったり、具体的なイメージを持ったりしにくくなってしまったことが反省点です。





パパ通信発行のための作戦会議

2009年2月14日（金） 17:30～25:00

父親むけの通信発行の企画をしたにも関わらず、プロに学ぶ通信づくり講座2回開催した後もなかなか思うように進まずにいました。理由は「通信編集段階から父親が関わる」ことにこだわっていたからです。

当初「作成はスタッフ（主に女性）、読み手は父親」と考えていましたが、当事者（父親）、県担当者等と具体的なイメージを話し合ったところ、「女性が作った読み物を父親が関心を持って読むのか」、「通信物を作るところから父親自身に関わってもらうことが大事なのではないか。」というご意見をいただきました。

今回の作戦会議でも、父親自身が、通信発行の必要性を感じることができず、逆に今回のような交流の場のほうが大事ではないか…という結論になりました。父親の手による情報発信の前に、交流の場の設定が求められていることがわかりました。交流が進んでいけば、自ら情報発信に対して関心ももたれるのではないかと想定します。

年度内の通信の発行には至りませんでした。【あそび心が大切！】なこと、【おしつけはイヤ！】という父親の気持ちや考えがわかったことが次年度に繋がる大きな収穫でした。

今年度の関わりや話し合いを反映させ、年間6回発行をしているおやこ通信の中で父親によるページを作っていくことを提案していきます。

会場

おやこ劇場松江センター事務所

準備物

キムチ鍋の食材、なべ、コンロ等の調理器具、アルコールを含む飲み物、おつまみ

参加者数

おとな10名（父親6名、県担当者1名、スタッフ3名）





父親の感想

●賛成？反対？パパ通信 「結果よりもプロセス」

個人的にはパパ通信はあまり必要を感じていません。集められたお父さんで《パパ通信》について話をしました。お酒呑みながら。賛成反対よりも今の子育てについてそれぞれに考えがあり、皆さん本当に真剣に考えておられることが分かりました。そのようなパパ通信をめぐる“やり取り”そのものが有意義だったように感じています。

「パパ通信をお父さん」が作るとするなら、「お父さんが作りたい!!」の動機が必要です。今のところその動機がありません。ですので、パパ通信は作らなくてもいいと考えています。それよりも、もっとおやこ劇場さんでお父さんが集まる機会を作っていただく方が魅力的だと思います。

〈遊房からの提案〉

この場をかりて、ひとつ提案です。お父さん向けの子育てにすぐ活用できる実践講座をおやこ劇場さんでやってみるというのはどうでしょうか？ 母親向けのものはいろいろあると思います。それをお父さん向けにアレンジから始めてもいいのではないのでしょうか。お父さんの出番が家庭でも増える機会を支援するような実践講座。ぜひ、私も協力させていただきます。 (遊びコンサルタント「遊房」主宰 5歳男児、1歳女児をもつ父親 高島智さん)

●作戦会議に参加して

18:00にはじまり、深夜の2:00おわりには、参りましたが、楽しく話しができてよかったです。今の父親は、うんこパンツを代えているか？というかは、ぜひ客観的なデータを知りたいですね。私はうんこパンツを当然のようにかかえていて、かみさんも、いいお父さんだと思ってはいますが、もしかしたら、今の世の中あたりまえなのかも。

●事業全体を通じて

お父さんだけで、ときどき企画はなんだか不自然です。お母さんもいっしょがいいですけど。パパ通信の必要性はなんともいえません。どうやって配るか、ということがついてまわりますし。配り方をおいておいて、中身から考えると、「お父さんたちがどうやって子供と楽しく遊んでいるのか」「子供とのつきあいの中でおもしろかったこと」などのネタがくだけた感じで読めるものがあるといいかなあ。たくさんの人（おとうさん）に書いてもらう必要があるし、ある程度定期的に発行されている必要がありますね。紙にこだわらず、メールマガジンや、ブログ、SNSという方法もあります。紙については、当面は、おやこ通信にはさむぐらいで、あとは、スティックビルと田和山の子育てセンターにおいておくぐらいでしょうか。

コンテンツのなかで、この日は、だれだれさんが、城山でどんぐりひろい遊びをやりまよよ、というような遊び予定の情報が入るといいかも。 (小3、5歳、3歳、0歳の男児をもつ父親・田中隆一さん)

担当者の感想・工夫したこと

パパ通信作成へ向けて、「当事者はどう考えているのか」「作成の動機付けにしたい」と考え、父親同士話し合う場を設定しました。やっと行った作戦会議は、年度末に近づいた時期ではありましたが、「日ごろの我が家の子育て事情」を話しながらの自己紹介からはじまりました。硬い話し合いの場にするのではなく、飲みながら食べながらのざっくばらんな会になるよう心がけました。通信についての話題ばかりではありませんでしたが、何をネタにするのか、どうやって届けるのか、紙なのかWeb上なのか…と、さまざまな議論で盛り上がりました。今まで、子どもをキーワードにした父親同士の交流の機会がなかったためか、情報発信よりも継続的にこのような交流の機会を持つことが求められていることがわかりました。

交流が通信作成の第一歩につながることを期待し、父親主体の交流会を続けていきたいと考えています。

父親の子育てに関する意識調査

ここ数年、当団体事業への父親の参加が年々目に見えて増加し、休日の公園や街中でも子どもと共に過ごす父親の姿が多く見受けられるようになってきています。そのことから、父親の子育て参加が進んでいるのではないかという漠然とした感触がありました。また、イベント当日の準備や片づけに気軽に手をかしてくれる父親も増えていて、地域全体で地域の子どもたちみんなを育みたいと願う私たち子育て支援団体にとって、父親の存在への期待が高まっていました。

しかし、実際のところ、さまざまな事業への父親参加は母親主導で行われており、子どもとの関わりが父親にとって主体的なものなのかどうかは不明で、イベントに参加している父親同士が横につながりには至っていないのが実態ではないかと思われました。

そこで、父親の子育てに関する意識と子育ての実態を調査し、父親の子育て参加を阻む原因や課題を探りたいと考えました。ちょうど、数年に1度行われる「県民の少子化に関する意識調査」の年にあたるこのことで、それと併せる形で実施しました。

〈担当者の感想〉

「全県で父親の子育てに関する意識調査をしたい」と考えていたものの、結果的に私たち単独では非常に困難でした。県が数年ごとに実施している調査と併せて行ったからこそその回収率であり、集計結果であり、経年変化を見ることもできました。

設問の内容については、父親の子育てに関する意識や子育て状況を聞く項目のほかに、「父親は子どもとどんな風に関わりたいと思っているのか」「地域の子育て支援活動に対する意識」など、当団体として特に関心のある項目も加えることができました。

今後、当団体の周辺でアンケートを実施して、松江市内の子育て家庭の状況を全県の状況と比較し、課題を探ることも検討していきたいと思えます。

父親の子育てに関する意識調査は、通常の県が実施するアンケート調査と異なり、設問を作成する際、子育て支援団体・母親の視点から具体的な提案を多く頂いたため、調査票自体がより地に足がついたものになり成果がありました。また、調査の目的についても十分共有できたと思えます。一方で、個人情報の管理や市町村との調整は県が一元的に行わざるを得ませんでした。この点については、協働が難しいと考えます。

島根県 少子化対策推進室 板倉 寛

「父親の子育てに関する意識調査」結果の概要

平成 2 1 年 3 月

1 調査の概要

(1) 調査概要

島根県及びNPO 法人おやこ劇場松江センターは、平成 20 年度しまね協働実践事業の一環として平成 20 年 9 月に「父親の子育てに関する意識調査」を実施し、島根県が平成 11 年度（11 年 12 月）、平成 15 年度（16 年 3 月）に実施した調査結果等と比較を行うなどして調査結果をとりまとめました。（調査結果の詳細については別紙のとおり）

(2) 調査対象

島根県内に在住する 18 歳以上 50 歳未満の男女（サンプル数 3,000 人）

(3) 調査方法

各市町村住民基本台帳より無作為抽出（平成 20 年 9 月 1 日現在）し郵送による配布・回収

(4) 回収結果

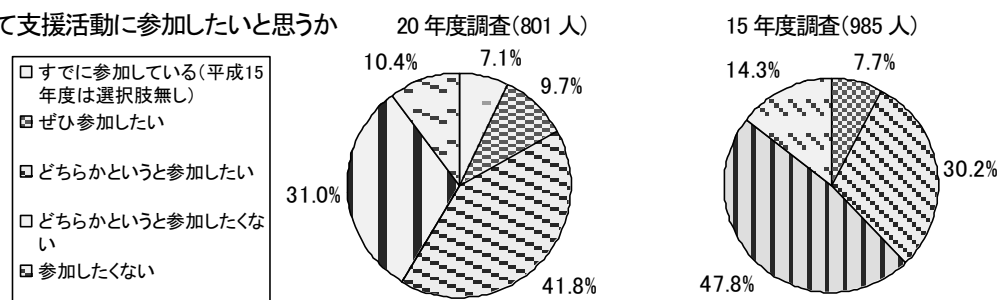
回収数：882 通 有効回答数：879 通 無効数：3 通

2 結果の概要

(1) 父親の子育てへの関わりを進めるために必要なこと（問 4）については、「夫婦や家庭間でのコミュニケーションをよくはかること（55.5%）」が最も高く、次いで「男性の育児休業等を進める法制化（39.7%）」、「職場が子育てしやすい雰囲気となること（39.1%）」、「子育て参加に対する父親自身の抵抗感をなくすこと（32.8%）」、「父親の子育てへの社会的気運が醸成されること（32.6%）」となっています。

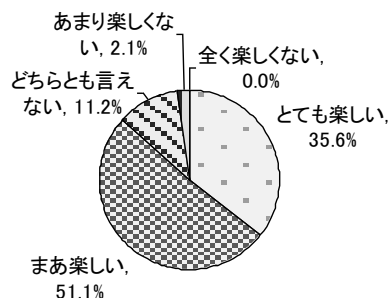
(2) 地域の子育て支援活動に参加したいかどうか（問 5）については、「ぜひ参加したい（9.7%）」、「どちらかというに参加したい（41.8%）」が増える一方、15 年度調査と比較して参加に否定的な回答が約 20%低下しています。（表 1 参照）

表 1 地域の子育て支援活動に参加したいと思うか

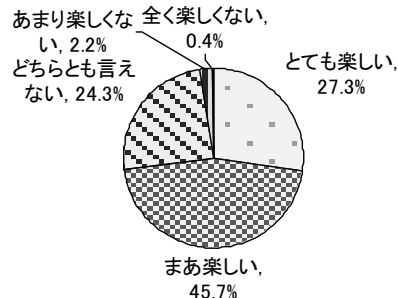


(3) 子育てを楽しいと思うか（問7）については、11年度調査と比べ「とても楽しい（35.6%）」、「まあ楽しい（51.1%）」の回答が合わせて10%以上増加しています。（表2参照）

表2 子育てを楽しいと思うか 20年度調査(526人)



11年度調査(768人)

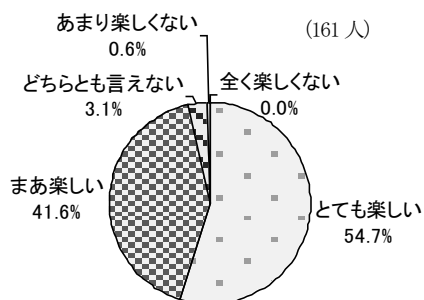


(4) 家庭での父親の子育てについては、「積極的に参加している（30.8%）」、「ある程度は参加している（47.2%）」の回答率は11、15年度調査と大きく変わっていません。（問8）

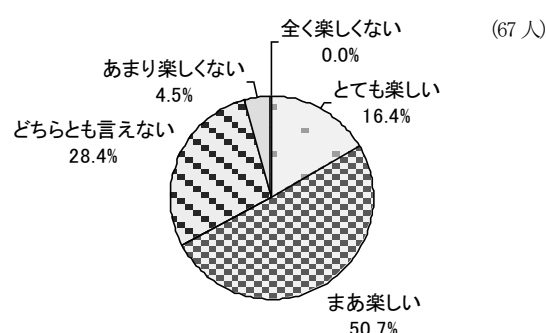
(5) 父親の子育てについては、父親が「積極的に参加している」と回答した者の多く（54.7%）は子育てが「とても楽しい」と答えています。（表3参照）（問7、問8）

表3 父親の子育て参加度と子育ての楽しさの関係(20年度調査)

父親が積極的に参加している場合の子育ての楽しさ



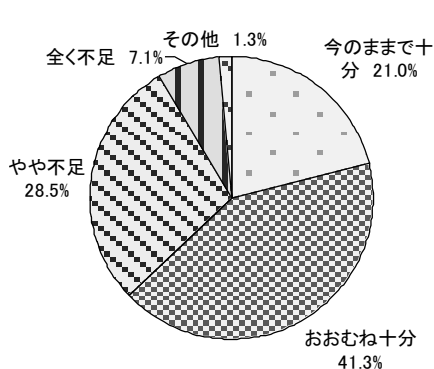
父親が頼まれたときだけ手伝っている場合の子育ての楽しさ



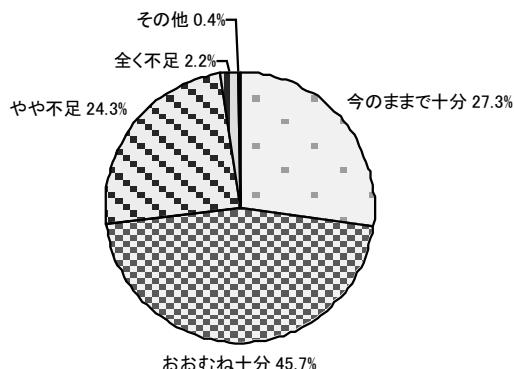
(6) 父親の子育てへの関わりの評価について（問9）は、「今のままで十分（21.0%）」「おおむね十分（41.3%）」の回答率が11年度調査より合わせて約10%落ちています。（表4参照）

表4 父親の子育てへの関わりについての評価

20年度調査(523人)



11年度調査(768人)



父親の子育てに関する意識調査結果 平成21年3月 島根県、NPO法人おやこ劇場松江センター

0 回答者の状況

〔0-1〕 居住市町村

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 松江市	222	26.5%	70	24.6%	152	27.5%
2 浜田市	82	9.8%	36	12.6%	46	8.3%
3 出雲市	153	18.3%	48	16.8%	105	19.0%
4 益田市	71	8.5%	29	10.2%	42	7.6%
5 大田市	44	5.3%	18	6.3%	26	4.7%
6 安来市	37	4.4%	8	2.8%	29	5.3%
7 江津市	36	4.3%	11	3.9%	25	4.5%
8 雲南市	48	5.7%	10	3.5%	38	6.9%
9 東出雲町	12	1.4%	4	1.4%	8	1.4%
10 奥出雲町	22	2.6%	6	2.1%	16	2.9%
11 飯南町	5	0.6%	1	0.4%	4	0.7%
12 斐川町	32	3.8%	16	5.6%	16	2.9%
13 川本町	7	0.8%	3	1.1%	4	0.7%
14 美郷町	6	0.7%	2	0.7%	4	0.7%
15 邑南町	10	1.2%	3	1.1%	7	1.3%
16 津和野町	14	1.7%	7	2.5%	6	1.1%
17 吉賀町	7	0.8%	0	0.0%	7	1.3%
18 海士町	1	0.1%	1	0.4%	0	0.0%
19 西ノ島町	4	0.5%	2	0.7%	2	0.4%
20 知夫村	3	0.4%	1	0.4%	2	0.4%
21 隠岐の島町	22	2.6%	9	3.2%	13	2.4%
有効回答者数	838	100%	285	100%	552	100%
無回答者数	41	—	16	—	21	—
対象回答者数	879	—	301	—	573	—

〔0-2〕 性別

	有効回答者数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%	無回答者数	
性別	874	100%	301	34.4%	573	65.6%	5	—

〔0-3〕 婚姻の状況

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 未婚	249	28.4%	108	36.0%	140	24.4%
2 結婚している	580	66.1%	171	57.0%	406	70.9%
3 結婚したが、離別または死別した	48	5.5%	21	7.0%	27	4.7%
有効回答者数	877	100%	300	100%	573	100%
無回答者数	2	—	1	—	0	—
対象回答者数	879	—	301	—	573	—

〈結婚している回答者の結婚期間〉

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 5年未満	107	19.1%	29	17.6%	77	19.7%
2 5年～10年未満	86	15.4%	24	14.5%	62	15.9%
3 10年～15年未満	102	18.2%	34	20.6%	67	17.1%
4 15年～20年未満	91	16.3%	33	20.0%	58	14.8%
5 20年以上	173	30.9%	45	27.3%	127	32.5%
有効回答者数	559	100%	165	100%	391	100%
無回答者数	21	—	6	—	15	—
対象回答者数	580	—	171	—	406	—

〈結婚したが、離別または死別した回答者の結婚期間〉

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 5年未満	7	16.7%	5	31.3%	2	7.7%
2 5年～10年未満	13	31.0%	4	25.0%	9	34.6%
3 10年～15年未満	11	26.2%	4	25.0%	7	26.9%
4 15年～20年未満	6	14.3%	2	12.5%	4	15.4%
5 20年以上	5	11.9%	1	6.3%	4	15.4%
有効回答者数	42	100%	16	100%	26	100%
無回答者数	6	—	5	—	1	—
対象回答者数	48	—	21	—	27	—

〔0-4〕 年齢		全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1	20歳未満	42	4.9%	19	6.4%	21	3.7%
2	20～24歳	69	8.0%	29	9.8%	40	7.1%
3	25～29歳	111	12.9%	35	11.9%	76	13.5%
4	30～34歳	122	14.1%	30	10.2%	92	16.3%
5	35～39歳	145	16.8%	38	12.9%	107	19.0%
6	40～44歳	117	13.6%	42	14.2%	74	13.1%
7	45～49歳	257	29.8%	102	34.6%	154	27.3%
有効回答者数		863	100%	295	100%	564	100%
無回答者数		16	—	6	—	9	—
対象回答者数		879	—	301	—	573	—

〔0-5〕 配偶者の年齢		全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1	20歳未満	2	0.3%	1	0.6%	1	0.2%
2	20～24歳	7	1.2%	1	0.6%	6	1.5%
3	25～29歳	47	8.2%	14	8.2%	33	8.2%
4	30～34歳	80	13.9%	29	17.1%	51	12.7%
5	35～39歳	108	18.8%	31	18.2%	77	19.2%
6	40～44歳	96	16.7%	31	18.2%	65	16.2%
7	45～49歳	137	23.9%	55	32.4%	81	20.1%
8	50歳以上	97	16.9%	8	4.7%	88	21.9%
有効回答者数		574	100%	170	100%	402	100%
無回答者数		6	—	1	—	4	—
対象回答者数		580	—	171	—	406	—

〔0-6〕 就労状況		全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1	勤め人(常勤)	477	55.1%	219	73.7%	256	45.3%
2	自営業(農林漁業を含む)、自由業、家族従業者	63	7.3%	25	8.4%	38	6.7%
3	パート、アルバイト	151	17.4%	12	4.0%	138	24.4%
4	内職	3	0.3%	0	0.0%	3	0.5%
5	無職(主婦・主夫(家事専業)、家事手伝い等)	109	12.6%	8	2.7%	101	17.9%
6	学生	55	6.4%	27	9.1%	27	4.8%
7	その他	8	0.9%	6	2.0%	2	0.4%
有効回答者数		866	100%	297	100%	565	100%
無回答者数		13	—	4	—	8	—
対象回答者数		879	—	301	—	573	—

〔0-7〕 配偶者の就労状況		全体数	全体%	妻数	妻%	夫数	夫%
1	勤め人(常勤)	429	75.5%	87	52.4%	340	85.0%
2	自営業(農林漁業を含む)、自由業、家族従業者	60	10.6%	6	3.6%	54	13.5%
3	パート、アルバイト	37	6.5%	36	21.7%	1	0.3%
4	内職	2	0.4%	2	1.2%	0	0.0%
5	無職(主婦・主夫(家事専業)、家事手伝い等)	38	6.7%	35	21.1%	3	0.8%
6	学生	1	0.2%	0	0.0%	1	0.3%
7	その他	1	0.2%	0	0.0%	1	0.3%
有効回答者数		568	100%	166	100%	400	100%
無回答者数		12	—	5	—	6	—
対象回答者数		580	—	171	—	406	—

〈夫婦等の就労状況〉		全体数	全体%
1	共働き世帯	439	51.3%
2	片働き世帯	127	14.8%
3	単身世帯その他	290	33.9%
有効回答者数		856	100%
無回答者数		23	—
対象回答者数		879	—

(注) 共働き世帯: 回答者が就労しており、かつ配偶者があり配偶者も就労している世帯

片働き世帯: 配偶者のある回答者に対し、回答者または配偶者どちらか一方のみが就労している世帯

単身世帯その他: 上記以外の世帯全て

〔0-8〕 世帯の昨年1年間の税込みの収入(ボーナスなども含む全ての収入)

	全体数	全体%	18～29歳数	18～29歳%	30～39歳数	30～39歳%	40～49歳数	40～49歳%
1 無収入	41	5.2%	33	17.4%	2	0.8%	5	1.4%
2 100万円未満	32	4.0%	14	7.4%	10	4.1%	7	2.0%
3 100万円以上300万円未満	218	27.6%	77	40.5%	69	28.3%	69	20.0%
4 300万円以上500万円未満	233	29.5%	40	21.1%	92	37.7%	99	28.7%
5 500万円以上700万円未満	136	17.2%	13	6.8%	44	18.0%	77	22.3%
6 700万円以上1,000万円未満	96	12.1%	7	3.7%	21	8.6%	65	18.8%
7 1,000万円以上	35	4.4%	6	3.2%	6	2.5%	23	6.7%
有効回答者数	791	100%	190	100%	244	100%	345	100%
無回答者数	88	—	32	—	23	—	29	—
対象回答者数	879	—	222	—	267	—	374	—

〔0-9〕 世帯の人数(本人を含む)

	全体数	全体%
1 1人	48	6.1%
2 2人	90	11.5%
3 3人	185	23.7%
4 4人	196	25.1%
5 5人	123	15.7%
6 6人	86	11.0%
7 7人	39	5.0%
8 8人	9	1.2%
9 9人	4	0.5%
10 10人以上	1	0.1%
有効回答者数	781	100%
無回答者数	98	—
対象回答者数	879	—

〔0-10〕 世帯の構成員

	全体数	全体%
1 配偶者(夫または妻。内縁関係を含む)	559	64.5%
2 子ども	507	58.5%
3 父母(配偶者の父母を含む)	425	49.0%
4 孫	9	1.0%
5 祖父母(配偶者の祖父母を含む)	101	11.6%
6 自分の子どもの配偶者	3	0.3%
7 兄弟姉妹(配偶者の兄弟姉妹を含む)	120	13.8%
8 その他の同居者	8	0.9%
9 同居者はいない	42	4.8%
有効回答者数	867	100%
無回答者数	12	—
対象回答者数	879	—

〈世帯の構成〉

	全体数	全体%
1 核家族	533	61.5%
2 三世代	258	29.8%
3 単身	42	4.8%
4 その他	34	3.9%
有効回答者数	867	100%
無回答者数	12	—
対象回答者数	879	—

(注) 核家族: 夫婦のみの世帯、夫婦と子どもからなる世帯、男親または女親と子どもからなる世帯

三世代家族: 本人と配偶者または、そのどちらかと子どもと親(片親含む)の世帯及びこの形態に親族と家族以外が同居している世帯

単身世帯: 同居者がいない世帯

その他: 兄弟姉妹とのみ同居している世帯等上記以外全ての世帯

〔0-11〕 子ども(別居も含む)の数

	全体数	全体%
1 1人	135	17.0%
2 2人	269	33.9%
3 3人	131	16.5%
4 4人	25	3.2%
5 5人以上	4	0.5%
6 0人	229	28.9%
有効回答者数	793	100%
無回答者数	86	—
対象回答者数	879	—

〔0-12〕

①第1子の年齢

	全体数	全体%
1 0～6歳	145	26.0%
2 7～12歳	112	20.1%
3 13～18歳	135	24.2%
4 19歳以上	166	29.7%
有効回答者数	558	100%
無回答者数	6	—
対象回答者数	564	—

④第4子の年齢

	全体数	全体%
1 0～6歳	3	10.7%
2 7～12歳	16	57.1%
3 13～18歳	8	28.6%
4 19歳以上	1	3.6%
有効回答者数	28	100%
無回答者数	1	—
対象回答者数	29	—

②第2子の年齢

	全体数	全体%
1 0～6歳	109	25.5%
2 7～12歳	97	22.7%
3 13～18歳	113	26.5%
4 19歳以上	108	25.3%
有効回答者数	427	100%
無回答者数	2	—
対象回答者数	429	—

⑤第5子の年齢

	全体数	全体%
1 0～6歳	2	50.0%
2 7～12歳	0	0.0%
3 13～18歳	2	50.0%
4 19歳以上	0	0.0%
有効回答者数	4	100%
無回答者数	0	—
対象回答者数	4	—

③第3子の年齢

	全体数	全体%
1 0～6歳	38	24.1%
2 7～12歳	39	24.7%
3 13～18歳	56	35.4%
4 19歳以上	25	15.8%
有効回答者数	158	100%
無回答者数	2	—
対象回答者数	160	—

〔0-13〕 第1子出生時の年齢

	①父親の年齢		②母親の年齢	
	全体数	全体%	全体数	全体%
1 20歳未満	1	0.2%	2	0.4%
2 20～24歳	67	12.2%	135	24.7%
3 25～29歳	230	41.8%	267	48.8%
4 30～34歳	157	28.5%	102	18.6%
5 35～39歳	70	12.7%	22	4.0%
6 40～44歳	15	2.7%	12	2.2%
7 45～49歳	6	1.1%	4	0.7%
8 50歳以上	4	0.7%	3	0.5%
有効回答者数	550	100%	547	100%
無回答者数	14	—	17	—
対象回答者数	564	—	564	—

問1 あなたは、家庭では誰が子育てに携わるのがよいと思いますか。【すべての方】（○は1つ）

- ①総論:「父母が同じくらい協力して携わるのがよい」の回答率が、県H15調査と比べると減少しているものの、全世代の男性・女性とも最も高い。一方、「父親、母親のどちらでもよい」、「父母以外がかかわってもよい」は、県H15調査と比べ増加している。
- ②男女間比較:男性は女性と比較して「父母以外がかかわってもよい」の回答率が高い。
- ③世代間比較:若い世代は「主に母親が携わるのがよい」の回答率が低い傾向がある。

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 主に父親が携わるのがよい	2	0.2%	0	0.0%	2	0.4%
2 主に母親が携わるのがよい	120	14.7%	39	13.6%	81	15.4%
3 父母が同じくらい協力して携わるのがよい	478	58.4%	157	54.7%	317	60.3%
4 父親、母親のどちらでもよい	59	7.2%	21	7.3%	38	7.2%
5 その家庭の状況に応じて父母以外がかかわってもよい	143	17.5%	62	21.6%	80	15.2%
6 その他	10	1.2%	5	1.7%	5	1.0%
7 わからない	6	0.7%	3	1.0%	3	0.6%
有効回答者数	818	100%	287	100%	526	100%

→参考 過去の調査結果

	県H15 全体数	県H15 全体%	県H15 男性数	県H15 男性%	県H15 女性数	県H15 女性%
1 主に父親が携わるのがよい	8	0.8%	5	1.2%	3	0.5%
2 主に母親が携わるのがよい	161	16.0%	74	17.8%	87	14.4%
3 父母が同じくらい協力して携わるのがよい	652	64.6%	246	58.9%	405	67.2%
4 父親、母親のどちらでもよい	45	4.5%	30	7.2%	15	2.5%
5 その家庭の状況に応じて父母以外がかかわってもよい	129	12.8%	56	13.4%	73	12.1%
6 その他	9	0.9%	3	0.7%	6	1.0%
7 わからない	5	0.5%	3	0.7%	2	0.3%
有効回答者数	1009	100%	417	100%	591	100%

→問1(性別・年齢別結果) あなたは、家庭では誰が子育てに携わるのがよいと思いますか。

	男性18～ 29歳数	男性18～ 29歳%	男性30～ 39歳数	男性30～ 39歳%	男性40～ 49歳数	男性40～ 49歳%	女性18～ 29歳数	女性18～ 29歳%	女性30～ 39歳数	女性30～ 39歳%	女性40～ 49歳数	女性40～ 49歳%
1 主に父親が携わるのがよい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%
2 主に母親が携わるのがよい	7	9.2%	4	6.2%	28	19.9%	13	9.9%	26	13.9%	42	20.8%
3 父母が同じくらい協力して携わるのがよい	44	57.9%	32	49.2%	76	53.9%	81	61.8%	118	63.1%	112	55.4%
4 父親、母親のどちらでもよい	5	6.6%	6	9.2%	10	7.1%	14	10.7%	11	5.9%	13	6.4%
5 その家庭の状況に応じて父母以外がかかわってもよい	18	23.7%	22	33.8%	22	15.6%	22	16.8%	29	15.5%	29	14.4%
6 その他	1	1.3%	0	0.0%	4	2.8%	0	0.0%	2	1.1%	3	1.5%
7 わからない	1	1.3%	1	1.5%	1	0.7%	1	0.8%	1	0.5%	1	0.5%
有効回答者数	76	100%	65	100%	141	100%	131	100%	187	100%	202	100%

問2 あなたは、子どもが3歳くらいまでは、家庭では誰が子育てに携わるのがよいと思いますか。
【すべての方】(○は1つ)

- ①総論:「父母が同じくらい協力して携わるのがよい」が全世代の男性・女性とも最も高い。
 県H15調査と比べ、「父母が同じくらい協力して携わるのがよい」の回答率は、男性が微増しているが、女性は逆に減少し、「主に母親が携わるのがよい」が増加している。一方、男女とも、「父母以外がかかわってもよい」、「父親、母親のどちらでもよい」が増加している。
- ②男女間比較: 女性は男性と比較して「主に母親が携わるのがよい」が高く、男性は女性と比較して「父母以外がかかわってもよい」が高い。
- ③世代間比較: 若い世代ほど「主に母親が携わるのがよい」が低い。

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 主に父親が携わるのがよい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2 主に母親が携わるのがよい	242	29.5%	74	25.7%	168	31.9%
3 父母が同じくらい協力して携わるのがよい	395	48.2%	145	50.3%	247	46.9%
4 父親、母親のどちらでもよい	42	5.1%	16	5.6%	26	4.9%
5 その家庭の状況に応じて父母以外がかかわってもよい	133	16.2%	50	17.4%	81	15.4%
6 その他	2	0.2%	0	0.0%	2	0.4%
7 わからない	6	0.7%	3	1.0%	3	0.6%
有効回答者数	820	100%	288	100%	527	100%

→問2(性別・年齢別結果) あなたは、子どもが3歳くらいまでは、家庭では誰が子育てに携わるのがよいと思いますか。

	県H15 全体数	県H15 全体%	県H15 男性数	県H15 男性%	県H15 女性数	県H15 女性%	県H11 全体数	県H11 全体%	県H11 男性数	県H11 男性%	県H11 女性数	県H11 女性%
1 主に父親が携わるのがよい	1	0.1%	1	0.2%	0	0.0%	4	0.3%	3	0.6%	1	0.1%
2 主に母親が携わるのがよい	351	34.8%	150	36.0%	200	33.8%	419	35.8%	198	39.3%	221	33.1%
3 父母が同じくらい協力して携わるのがよい	511	50.6%	199	47.7%	312	52.7%	527	45.0%	217	43.1%	310	46.5%
4 父親、母親のどちらでもよい	31	3.1%	19	4.6%	12	2.0%	33	2.8%	18	3.6%	15	2.2%
5 その家庭の状況に応じて父母以外がかかわってもよい	96	9.5%	39	9.4%	57	9.6%	163	13.9%	53	10.5%	110	16.5%
6 その他	9	0.9%	4	1.0%	5	0.8%	11	0.9%	5	1.0%	6	0.9%
7 わからない	11	1.0%	5	1.2%	6	1.0%	14	1.2%	10	2.0%	4	0.6%
有効回答者数	1010	100%	417	100%	592	100%	1171	100%	504	100%	667	100%

→問2(性別・年齢別結果) あなたは、子どもが3歳くらいまでは、家庭では誰が子育てに携わるのがよいと思いますか。

	男性18～ 29歳数	男性18～ 29歳%	男性30～ 39歳数	男性30～ 39歳%	男性40～ 49歳数	男性40～ 49歳%	女性18～ 29歳数	女性18～ 29歳%	女性30～ 39歳数	女性30～ 39歳%	女性40～ 49歳数	女性40～ 49歳%
1 主に父親が携わるのがよい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2 主に母親が携わるのがよい	10	13.2%	16	24.2%	45	31.9%	29	22.1%	61	32.8%	77	37.7%
3 父母が同じくらい協力して携わるのがよい	43	56.6%	31	47.0%	69	48.9%	74	56.5%	89	47.8%	80	39.2%
4 父親、母親のどちらでもよい	6	7.9%	4	6.1%	6	4.3%	9	6.9%	6	3.2%	11	5.4%
5 その家庭の状況に応じて父母以外がかかわってもよい	16	21.1%	15	22.7%	19	13.5%	16	12.2%	29	15.6%	35	17.2%
6 その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%
7 わからない	1	1.3%	0	0.0%	2	1.4%	3	2.3%	0	0.0%	0	0.0%
有効回答者数	76	100%	66	100%	141	100%	131	100%	186	100%	204	100%

問3 男性の育児休業制度が普及しない理由は、次のうちどれだと思いますか。【すべての方】（○は1つ）

- ①総論:「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気」の回答率が全世代の男性・女性とも最も高い。
 ②男女間比較:次に回答率が高かった項目は、男性は「職場の同僚に迷惑がかかる」が高く、
 女性は「収入が減る」が高い。

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 育児休業を取得しにくい職場の雰囲気	375	46.2%	130	45.9%	242	46.2%
2 職場の同僚に迷惑がかかる	120	14.8%	49	17.3%	71	13.5%
3 女性が育児休業を取るのに必要ない	41	5.0%	13	4.6%	28	5.3%
4 保育所等に預けられるので必要ない	13	1.6%	5	1.8%	8	1.5%
5 父母等協力してくれる人に頼めば良いので必要ない	9	1.1%	3	1.1%	6	1.1%
6 育児休業を取得すると収入が減る	131	16.1%	35	12.4%	95	18.1%
7 育児休業制度の詳細が周知されていない	79	9.7%	26	9.2%	53	10.1%
8 その他(主なご意見:①母親が育児をするべき、②父親は仕事を一番に考えるべき、③父親は子育てに向いていない、④前例がない等)	44	5.4%	22	7.8%	21	4.0%
有効回答者数	812	100%	283	100%	524	100%

→問3(性別・年齢別結果) 男性の育児休業制度が普及しない理由は、次のうちどれだと思いますか。

	男性18～29歳数	男性18～29歳%	男性30～39歳数	男性30～39歳%	男性40～49歳数	男性40～49歳%	女性18～29歳数	女性18～29歳%	女性30～39歳数	女性30～39歳%	女性40～49歳数	女性40～49歳%
1 育児休業を取得しにくい職場の雰囲気	36	50.0%	30	45.5%	61	43.6%	58	44.3%	91	48.9%	91	45.3%
2 職場の同僚に迷惑がかかる	14	19.4%	11	16.7%	23	16.4%	12	9.2%	27	14.5%	31	15.4%
3 女性が育児休業を取るのに必要ない	5	6.9%	2	3.0%	6	4.3%	6	4.6%	13	7.0%	7	3.5%
4 保育所等に預けられるので必要ない	1	1.4%	1	1.5%	2	1.4%	3	2.3%	2	1.1%	3	1.5%
5 父母等協力してくれる人に頼めば良いので必要ない	0	0.0%	0	0.0%	3	2.1%	1	0.8%	1	0.5%	4	2.0%
6 育児休業を取得すると収入が減る	8	11.1%	12	18.2%	15	10.7%	27	20.6%	35	18.8%	33	16.4%
7 育児休業制度の詳細が周知されていない	4	5.6%	7	10.6%	15	10.7%	18	13.7%	10	5.4%	24	11.9%
8 その他(主なご意見:①母親が育児をするべき、②父親は仕事を一番に考えるべき、③父親は子育てに向いていない、④前例がない等)	4	5.6%	3	4.5%	15	10.7%	6	4.6%	7	3.8%	8	4.0%
有効回答者数	72	100%	66	100%	140	100%	131	100%	186	100%	201	100%

問4 父親の子育てへの関わりを進めるために何が必要とお考えですか。【すべての方】（○は3つまで）

- ①総論:「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の回答率が全世代の男性・女性とも最も高い。次に、「法制化」、「職場が子育てしやすい雰囲気となること」、「父親自身の抵抗感を無くす」、「社会的気運が醸成されること」の回答率が高い。
- ②男女間比較:男性は女性に比べ「法制化」や「父親が参加しやすい催し」を求める回答率が高く、女性は男性に比べ「父親自身の抵抗感を無くすこと」を求める回答率が高い。
- ③世代間比較:30代、特に男性の「法制化」を求める回答率が他に比して高い。

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	450	55.5%	157	55.7%	293	55.9%
2 子育て参加に対する父親自身の抵抗感を無くすこと	266	32.8%	78	27.7%	184	35.1%
3 子育て仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	47	5.8%	19	6.7%	27	5.2%
4 地域・学校等に父親が参加しやすい催しが開催されること	133	16.4%	55	19.5%	76	14.5%
5 父親の子育てへの関わりについて評価が高まるなど社会的気運が醸成されること	264	32.6%	94	33.3%	168	32.1%
6 男性の育児休業の取得義務を課したり休業期間中の所得補償を充実する法制化を行うこと	322	39.7%	122	43.3%	199	38.0%
7 職場が子育てしやすい雰囲気となること	317	39.1%	108	38.3%	208	39.7%
8 男性が子育てに参加することに対する女性の抵抗感を無くすこと	47	5.8%	15	5.3%	32	6.1%
9 その他(主なご意見:①男性と女性で子育ての役割が異なる、②男性参加の育児教室の開催等)	22	2.7%	7	2.5%	15	2.9%
有効回答者数	811	100%	282	100%	524	100%

問4(性別・年齢別結果)父親の子育てへの関わりを進めるために何が必要とお考えですか。

	男性18～29歳数	男性18～29歳%	男性30～39歳数	男性30～39歳%	男性40～49歳数	男性40～49歳%	女性18～29歳数	女性18～29歳%	女性30～39歳数	女性30～39歳%	女性40～49歳数	女性40～49歳%
1 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	39	51.3%	37	56.1%	79	58.5%	61	46.6%	113	61.1%	115	56.9%
2 子育て参加に対する父親自身の抵抗感を無くすこと	26	34.2%	14	21.2%	36	26.7%	43	32.8%	59	31.9%	79	39.1%
3 子育て仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	5	6.6%	6	9.1%	8	5.9%	10	7.6%	5	2.7%	11	5.4%
4 地域・学校等に父親が参加しやすい催しが開催されること	17	22.4%	9	13.6%	29	21.5%	16	12.2%	31	16.8%	29	14.4%
5 父親の子育てへの関わりについて評価が高まるなど社会的気運が醸成されること	30	39.5%	19	28.8%	44	32.6%	42	32.1%	58	31.4%	68	33.7%
6 男性の育児休業の取得義務を課したり休業期間中の所得補償を充実する法制化を行うこと	30	39.5%	36	54.5%	54	40.0%	49	37.4%	78	42.2%	67	33.2%
7 職場が子育てしやすい雰囲気となること	25	32.9%	20	30.3%	61	45.2%	62	47.3%	72	38.9%	72	35.6%
8 男性が子育てに参加することに対する女性の抵抗感を無くすこと	6	7.9%	3	4.5%	6	4.4%	9	6.9%	11	5.9%	12	5.9%
9 その他(主なご意見:①男性と女性で子育ての役割が異なる、②男性参加の育児教室の開催等)	2	2.6%	2	3.0%	3	2.2%	1	0.8%	6	3.2%	8	4.0%
有効回答者数	76	100%	66	100%	135	100%	131	100%	185	100%	202	100%

問5 あなたは、機会があれば地域の子育て支援活動に参加したいと思いますか。(すでに行っていますか。)
【すべての方】(○は1つ)

- ①総論:「どちらかというに参加したい」の回答率が全世代の男性・女性とも最も高い。
過去調査と比べ、「ぜひ参加したい」、「どちらかというに参加したい」の割合が高くなっており、
「どちらかというに参加したくない」、「参加したくない」の割合が低くなっている。
②世代間比較:18歳～29歳の「参加したくない」の回答率が他の世代に比して高い。

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 すでに参加している	57	7.1%	27	9.6%	30	5.8%
2 ぜひ参加したい	78	9.7%	29	10.3%	48	9.3%
3 どちらかというに参加したい	335	41.8%	108	38.4%	226	43.9%
4 どちらかというに参加したくない	248	31.0%	86	30.6%	160	31.1%
5 参加したくない	83	10.4%	31	11.0%	51	9.9%
有効回答者数	801	100%	281	100%	515	100%

→参考 過去の調査結果

	県H15 全体数	県H15 全体%	県H15 男性数	県H15 男性%	県H15 女性数	県H15 女性%	県H11 全体数	県H11 全体%	県H11 男性数	県H11 男性%	県H11 女性数	県H11 女性%
1 すでに参加している	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 ぜひ参加したい	76	7.7%	26	6.4%	50	8.7%	94	8.1%	29	5.8%	65	9.8%
3 どちらかというに参加したい	297	30.2%	91	22.2%	206	35.8%	338	29.0%	117	23.5%	215	32.6%
4 どちらかというに参加したくない	471	47.8%	217	53.1%	253	44.0%	487	41.7%	226	45.5%	258	39.1%
5 参加したくない	141	14.3%	75	18.3%	66	11.5%	248	21.3%	125	25.2%	122	18.5%
有効回答者数	985	100%	409	100%	575	100%	1167	100%	497	100%	660	100%

→問5(性別・年齢別結果) あなたは、機会があれば地域の子育て支援活動に参加したいと思いますか。(すでに行っていますか。)

	男性18～ 29歳数	男性18～ 29歳%	男性30～ 39歳数	男性30～ 39歳%	男性40～ 49歳数	男性40～ 49歳%	女性18～ 29歳数	女性18～ 29歳%	女性30～ 39歳数	女性30～ 39歳%	女性40～ 49歳数	女性40～ 49歳%
1 すでに参加している	1	1.3%	5	7.6%	20	14.8%	2	1.6%	13	7.1%	14	7.1%
2 ぜひ参加したい	13	17.3%	10	15.2%	6	4.4%	16	12.5%	18	9.8%	14	7.1%
3 どちらかというに参加したい	29	38.7%	25	37.9%	53	39.3%	55	43.0%	84	45.9%	83	41.9%
4 どちらかというに参加したくない	19	25.3%	21	31.8%	43	31.9%	38	29.7%	55	30.1%	66	33.3%
5 参加したくない	13	17.3%	5	7.6%	13	9.6%	17	13.3%	13	7.1%	21	10.6%
有効回答者数	75	100%	66	100%	135	100%	128	100%	183	100%	198	100%

問6 あなたがしたい(すでに行っている)地域の子育て支援活動は、どのような子育て支援活動ですか。
【問5で①～③と回答した方】(○は2つまで)

- ①総論: 圧倒的に率が高い回答は無い。
 ②男女間比較: 男性は「自治体の子育て支援活動の手伝い」、「スポーツ指導」、「通学路等の見守りや維持管理」の回答率が高く、女性は「子育てサークル・グループ等の手伝い」、「自治体の子育て支援活動の手伝い」が高い。
 ③世代間比較: 18～29歳の「子育てサロン・サークル等の運営」の回答率が他の世代に比べて高い。

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 資格を生かした活動	73	16.6%	24	15.3%	49	17.4%
2 子育てサークル・グループ・団体の運営	41	9.3%	11	7.0%	29	10.3%
3 子育てサークル・グループ・団体の手伝い	148	33.6%	36	22.9%	111	39.5%
4 自治体の子育て支援活動の手伝い	146	33.2%	57	36.3%	89	31.7%
5 スポーツ指導	90	20.5%	51	32.5%	38	13.5%
6 通学路、公園や子どもの遊び場で見守りや維持管理	103	23.4%	48	30.6%	54	19.2%
7 その他(主なご意見:学校活動への参加等)	5	1.1%	1	0.6%	4	1.4%
有効回答者数	440	100%	157	100%	281	100%

→問6(性別・年齢別結果) あなたがしたい(すでに行っている)地域の子育て支援活動は、どのような子育て支援活動ですか。

	男性18～29歳数	男性18～29歳%	男性30～39歳数	男性30～39歳%	男性40～49歳数	男性40～49歳%	女性18～29歳数	女性18～29歳%	女性30～39歳数	女性30～39歳%	女性40～49歳数	女性40～49歳%
1 資格を生かした活動	5	12.5%	8	21.1%	10	13.0%	9	13.4%	20	19.0%	18	17.3%
2 子育てサークル・グループ・団体の運営	4	10.0%	2	5.3%	5	6.5%	11	16.4%	11	10.5%	7	6.7%
3 子育てサークル・グループ・団体の手伝い	10	25.0%	9	23.7%	16	20.8%	31	46.3%	43	41.0%	36	34.6%
4 自治体の子育て支援活動の手伝い	13	32.5%	17	44.7%	26	33.8%	13	19.4%	34	32.4%	39	37.5%
5 スポーツ指導	13	32.5%	9	23.7%	29	37.7%	9	13.4%	12	11.4%	15	14.4%
6 通学路、公園や子どもの遊び場で見守りや維持管理	13	32.5%	11	28.9%	23	29.9%	16	23.9%	16	15.2%	21	20.2%
7 その他(主なご意見:学校活動への参加等)	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%	2	3.0%	1	1.0%	1	1.0%
有効回答者数	40	100%	38	100%	77	100%	67	100%	105	100%	104	100%

問7 あなたは、子育てを楽しみますか。【お子さんがいる方のみ】（○は1つ）

- ①総論:「とても楽しい」、「まあ楽しい」の回答率が県H11調査と比べて高くなっている。
 ②世代間比較:若い世代ほど、「とても楽しい」、「まあ楽しい」の回答率が高い。

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 とても楽しい	187	35.6%	58	34.1%	128	36.2%
2 まあ楽しい	269	51.1%	88	51.8%	181	51.1%
3 どちらとも言えない	59	11.2%	21	12.4%	37	10.5%
4 あまり楽しくない	11	2.1%	3	1.8%	8	2.3%
5 全く楽しくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
有効回答者数	526	100%	170	100%	354	100%

→参考 過去の調査結果

	県H11 全体数	県H11 全体%	県H11 男性数	県H11 男性%	県H11 女性数	県H11 女性%
1 とても楽しい	210	27.3%	107	31.8%	103	23.9%
2 まあ楽しい	351	45.7%	152	45.1%	199	46.2%
3 どちらとも言えない	187	24.3%	73	21.7%	114	26.5%
4 あまり楽しくない	17	2.2%	5	1.5%	12	2.8%
5 全く楽しくない	3	0.4%	0	0.0%	3	0.7%
有効回答者数	768	100%	337	100%	431	100%

→問7(性別・年齢別結果)あなたは、子育てを楽しみますか。

	男性18～ 29歳数	男性18～ 29歳%	男性30～ 39歳数	男性30～ 39歳%	男性40～ 49歳数	男性40～ 49歳%	女性18～ 29歳数	女性18～ 29歳%	女性30～ 39歳数	女性30～ 39歳%	女性40～ 49歳数	女性40～ 49歳%
1 とても楽しい	5	62.5%	22	47.8%	30	26.8%	18	54.5%	54	39.1%	54	30.3%
2 まあ楽しい	3	37.5%	20	43.5%	62	55.4%	15	45.5%	71	51.4%	93	52.2%
3 どちらとも言えない	0	0.0%	4	8.7%	17	15.2%	0	0.0%	12	8.7%	24	13.5%
4 あまり楽しくない	0	0.0%	0	0.0%	3	2.7%	0	0.0%	1	0.7%	7	3.9%
5 全く楽しくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
有効回答者数	8	100%	46	100%	112	100%	33	100%	138	100%	178	100%

問8 あなたの家庭では、父親は子育てにどの程度かかわっていますか。男性の場合はご自分について、女性の場合は配偶者についてお答えください。【お子さんがいる方のみ】（○は1つ）

- ①総論：「積極的に参加している」、「積極的ではないが、ある程度は参加している」の回答率が高い。県H11調査、県H15調査と比較して、男性は「積極的に参加している」と回答した割合が高くなっているが、女性はやや減少している。また、回答者の家庭の父親が子育てに「積極的に参加している」と回答した男女双方が、子育てを「とても楽しい」と答える傾向がある。
- ②世代間比較：若い世代は「積極的に参加している」、「積極的ではないが、ある程度は参加している」の回答率が高い傾向がある。

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 積極的に参加している	161	30.8%	60	35.9%	101	28.5%
2 積極的ではないが、ある程度は参加している	247	47.2%	81	48.5%	165	46.6%
3 頼まれたときだけ手伝っている	67	12.8%	14	8.4%	52	14.7%
4 ほとんど子育てにかかわっていない	35	6.7%	8	4.8%	27	7.6%
5 その他(主なご意見:①子どもと別居している、②気が向いたときだけ等)	13	2.5%	4	2.4%	9	2.5%
有効回答者数	523	100%	167	100%	354	100%

→参考 過去の調査結果

	県H15 全体数	県H15 全体%	県H15 男性数	県H15 男性%	県H15 女性数	県H15 女性%	県H11 全体数	県H11 全体%	県H11 男性数	県H11 男性%	県H11 女性数	県H11 女性%
1 積極的に参加している	193	29.9%	66	25.8%	127	32.6%	206	26.6%	94	27.9%	112	26.0%
2 積極的ではないが、ある程度は参加している	321	49.7%	143	55.9%	177	45.5%	382	49.4%	194	57.6%	188	43.6%
3 頼まれたときだけ手伝っている	93	14.4%	40	15.6%	53	13.6%	140	18.1%	45	13.4%	95	22.0%
4 ほとんど子育てにかかわっていない	35	5.4%	6	2.3%	29	7.5%	40	5.2%	10	3.0%	30	7.0%
5 その他(主なご意見:①子どもと別居している、②気が向いたときだけ等)	4	0.6%	1	0.4%	3	0.8%	6	0.8%	5	1.5%	1	0.2%
有効回答者数	646	100%	256	100%	389	100%	774	100%	348	100%	426	100%

→問8(性別・年齢別結果)あなたの家庭では、父親は子育てにどの程度かかわっていますか。男性の場合はご自分について、女性の場合は配偶者についてお答えください。

	男性18～ 29歳数	男性18～ 29歳%	男性30～ 39歳数	男性30～ 39歳%	男性40～ 49歳数	男性40～ 49歳%	女性18～ 29歳数	女性18～ 29歳%	女性30～ 39歳数	女性30～ 39歳%	女性40～ 49歳数	女性40～ 49歳%
1 積極的に参加している	2	25.0%	25	55.6%	32	29.1%	16	48.5%	50	36.2%	35	19.7%
2 積極的ではないが、ある程度は参加している	4	50.0%	15	33.3%	60	54.5%	11	33.3%	63	45.7%	89	50.0%
3 頼まれたときだけ手伝っている	1	12.5%	1	2.2%	11	10.0%	5	15.2%	11	8.0%	34	19.1%
4 ほとんど子育てにかかわっていない	0	0.0%	1	2.2%	7	6.4%	1	3.0%	12	8.7%	14	7.9%
5 その他(主なご意見:①子どもと別居している、②気が向いたときだけ等)	1	12.5%	3	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.4%	6	3.4%
有効回答者数	8	100%	45	100%	110	100%	33	100%	138	100%	178	100%

「性別」:(すべて) 「あなたは、子育てを楽しみますか」と「あなたの家庭では、父親は子育てにどの程度かかわっていますか」の関係

		有効回答者計		とても楽しい		まあ楽しい		どちらとも言えない		あまり楽しくない		全く楽しくない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	積極的に参加している	161	100%	88	54.7%	67	41.6%	5	3.1%	1	0.6%	0	0.0%
2	積極的ではないが、ある程度は参加している	246	100%	76	30.9%	145	58.9%	21	8.5%	4	1.6%	0	0.0%
3	頼まれたときだけ手伝っている	67	100%	11	16.4%	34	50.7%	19	28.4%	3	4.5%	0	0.0%
4	ほとんど子育てにかかわっていない	35	100%	7	20.0%	16	45.7%	9	25.7%	3	8.6%	0	0.0%
5	その他	13	100%	4	30.8%	5	38.5%	4	30.8%	0	0.0%	0	0.0%

「性別」:(男性) 「あなたは、子育てを楽しみますか」と「あなたの家庭では、父親は子育てにどの程度かかわっていますか」の関係

		有効回答者計		とても楽しい		まあ楽しい		どちらとも言えない		あまり楽しくない		全く楽しくない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	積極的に参加している	60	100%	35	58.3%	23	38.3%	1	1.7%	1	1.7%	0	0.0%
2	積極的ではないが、ある程度は参加している	81	100%	20	24.7%	52	64.2%	8	9.9%	1	1.2%	0	0.0%
3	頼まれたときだけ手伝っている	14	100%	0	0.0%	7	50.0%	7	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
4	ほとんど子育てにかかわっていない	8	100%	0	0.0%	3	37.5%	4	50.0%	1	12.5%	0	0.0%
5	その他	4	100%	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

「性別」:(女性) 「あなたは、子育てを楽しみますか」と「あなたの家庭では、父親は子育てにどの程度かかわっていますか」の関係

		有効回答者計		とても楽しい		まあ楽しい		どちらとも言えない		あまり楽しくない		全く楽しくない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	積極的に参加している	101	100%	53	52.5%	44	43.6%	4	4.0%	0	0.0%	0	0.0%
2	積極的ではないが、ある程度は参加している	165	100%	55	33.3%	93	56.4%	13	7.9%	3	1.8%	0	0.0%
3	頼まれたときだけ手伝っている	52	100%	11	21.2%	27	51.9%	11	21.2%	3	5.8%	0	0.0%
4	ほとんど子育てにかかわっていない	27	100%	7	25.9%	13	48.1%	5	18.5%	2	7.4%	0	0.0%
5	その他	9	100%	2	22.2%	3	33.3%	4	44.4%	0	0.0%	0	0.0%

問9 あなたの家庭における父親の子育てへの関わりについて、あなたはどのように評価していますか。
【お子さんがいる方のみ】（○は1つ）

- ①総論：父親の子育てへの関わりに対する評価は県H11調査に比べて全体的に厳しい。
②男女間比較：女性の評価の方が男性の自己評価よりやや厳しい。
③世代間比較：若い世代ほど「今のままで十分」、「おおむね十分」の回答率が高い。

	全体数	全体%	男性数	男性%	女性数	女性%
1 今のままで十分	110	21.0%	31	18.5%	79	22.6%
2 おおむね十分	216	41.3%	78	46.4%	138	39.5%
3 やや不足	149	28.5%	46	27.4%	101	28.9%
4 全く不足	37	7.1%	10	6.0%	27	7.7%
5 その他(主なご意見:①関わらなくて良い、②過保護、③評価できない等)	7	1.3%	3	1.8%	4	1.1%
有効回答者数	523	100%	168	100%	349	100%

→参考 過去の調査結果

	県H11 全体数	県H11 全体%	県H11 男性数	県H11 男性%	県H11 女性数	県H11 女性%
1 今のままで十分	210	27.3%	107	31.8%	103	23.9%
2 おおむね十分	351	45.7%	152	45.1%	199	46.2%
3 やや不足	187	24.3%	73	21.7%	114	26.5%
4 全く不足	17	2.2%	5	1.5%	12	2.8%
5 その他	3	0.4%	0	0.0%	3	0.7%
有効回答者数	768	100%	337	100%	431	100%

→問9(性別・年齢別結果)あなたの家庭における父親の子育てへの関わりについて、あなたはどのように評価していますか。

	男性18～ 29歳数	男性18～ 29歳%	男性30～ 39歳数	男性30～ 39歳%	男性40～ 49歳数	男性40～ 49歳%	女性18～ 29歳数	女性18～ 29歳%	女性30～ 39歳数	女性30～ 39歳%	女性40～ 49歳数	女性40～ 49歳%
1 今のままで十分	2	25.0%	10	21.7%	19	17.3%	9	27.3%	37	27.0%	31	17.8%
2 おおむね十分	5	62.5%	21	45.7%	50	45.5%	16	48.5%	51	37.2%	70	40.2%
3 やや不足	1	12.5%	11	23.9%	32	29.1%	7	21.2%	37	27.0%	55	31.6%
4 全く不足	0	0.0%	3	6.5%	7	6.4%	1	3.0%	11	8.0%	15	8.6%
5 その他(主なご意見:①関わらなくて良い、②過保護、③評価できない等)	0	0.0%	1	2.2%	2	1.8%	0	0.0%	1	0.7%	3	1.7%
有効回答者数	8	100%	46	100%	110	100%	33	100%	137	100%	174	100%

問10 あなたがあまり子育てに関わっていないのはなぜですか。【お子さんがいる方のうち、問8で「頼まれたときだけ手伝っている」、「ほとんど子育てにかかわっていない」と回答した父親の方】（○は1つ）

- ①総論：「仕事が忙しい」の回答率が圧倒的に高い。

	父親数	父親%	父親20代 以下数	父親20代 以下%	父親30 代数	父親30 代%	父親40 代数	父親40 代%
1 子育ては母親の仕事	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%
2 何をしていたかわからない	3	8.8%	0	0.0%	0	0.0%	3	11.5%
3 仕事が忙しい	22	64.7%	0	0.0%	6	75.0%	16	61.5%
4 体裁が悪い	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%
5 子どもとどう接すればいいかわからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6 子どもが自分になつかない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7 子どもと離れて暮らしている	4	11.8%	0	0.0%	2	25.0%	2	7.7%
8 その他(主なご意見:①年齢的にしんどい、②照れくさい)	3	8.8%	0	0.0%	0	0.0%	3	11.5%
有効回答者数	34	100%	0	0.0%	8	100%	26	100%

問11 あなたは家庭でどのように子育てに関わりたい(父親にしてほしい)ですか。【小学校入学前までのお子さんがいるご家庭】(○は3つまで)

- ①総論:「外遊び」の回答率が最も高く、中でも女性の回答率が高い。
 ②男女間比較:「入浴」、「寝かしつける」は男性の回答率が高く、「ほめたりしかったりする」、「家の中で遊んだり読み聞かせしたりする」、「幼稚園・保育所・地域の行事への参加」は女性の回答率が高い。
 ③世代間比較:若い世代の「入浴」の回答率は高いが、「話し相手」、「ほめたりしかったりする」の回答率は低い。

	全体数	全体%	父親数	父親%	母親数	母親%
1 入浴	98	47.3%	34	59.6%	64	42.7%
2 寝かしつける	27	13.0%	10	17.5%	17	11.3%
3 トイレの世話	4	1.9%	0	0.0%	4	2.7%
4 家の中で遊んだり読み聞かせしたりする	75	36.2%	17	29.8%	58	38.7%
5 外遊び	136	65.7%	35	61.4%	101	67.3%
6 食事の用意	10	4.8%	5	8.8%	5	3.3%
7 話し相手	62	30.0%	17	29.8%	45	30.0%
8 ほめたりしかったりする	97	46.9%	25	43.9%	72	48.0%
9 幼稚園・保育園・地域の行事への参加	72	34.8%	15	26.3%	57	38.0%
10 その他(主なご意見:①子どもの世話全て、②頼んだことをして欲しい等)	7	3.4%	2	3.5%	5	3.3%
有効回答者数	207	100%	57	100%	150	100%

→問11(性別・年齢別結果)あなたは家庭でどのように子育てに関わりたい(父親にしてほしい)ですか。

	男性18～29歳数	男性18～29歳%	男性30～39歳数	男性30～39歳%	男性40～49歳数	男性40～49歳%	女性18～29歳数	女性18～29歳%	女性30～39歳数	女性30～39歳%	女性40～49歳数	女性40～49歳%
1 入浴	6	85.7%	20	58.8%	8	50.0%	21	65.6%	37	37.0%	6	33.3%
2 寝かしつける	1	14.3%	7	20.6%	2	12.5%	6	18.8%	10	10.0%	1	5.6%
3 トイレの世話	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.3%	2	2.0%	0	0.0%
4 家の中で遊んだり読み聞かせしたりする	1	14.3%	10	29.4%	6	37.5%	11	34.4%	41	41.0%	6	33.3%
5 外遊び	4	57.1%	21	61.8%	10	62.5%	22	68.8%	67	67.0%	12	66.7%
6 食事の用意	0	0.0%	3	8.8%	2	12.5%	0	0.0%	4	4.0%	1	5.6%
7 話し相手	1	14.3%	11	32.4%	5	31.3%	6	18.8%	30	30.0%	9	50.0%
8 ほめたりしかったりする	1	14.3%	14	41.2%	10	62.5%	12	37.5%	51	51.0%	9	50.0%
9 幼稚園・保育園・地域の行事への参加	2	28.6%	9	26.5%	4	25.0%	12	37.5%	40	40.0%	5	27.8%
10 その他(主なご意見:①子どもの世話全て、②頼んだことをして欲しい等)	1	14.3%	1	2.9%	0	0.0%	1	3.1%	2	2.0%	2	11.1%
有効回答者数	7	100%	34	100%	16	100%	32	100%	100	100%	18	100%

問12 あなたは家庭でどのように子育てに関わりたい(父親にしてほしい)ですか。【小学校入学後のお子さんがあるご家庭】(○は3つまで)

- ①総論:「話し相手」、「ほめたりしかったりする」の回答率が最も高い。
 ②男女間比較:「スポーツ」、「勉強」は男性の回答率が高く、「話し相手」、「外で遊ぶ」は女性の回答率が高い。

	全体数	全体%	父親数	父親%	母親数	母親%
1 スポーツ	111	35.5%	44	41.1%	67	32.7%
2 野外活動	76	24.3%	25	23.4%	51	24.9%
3 勉強	65	20.8%	26	24.3%	39	19.0%
4 家の中で遊ぶ	30	9.6%	10	9.3%	20	9.8%
5 外で遊ぶ	104	33.2%	32	29.9%	72	35.1%
6 食事の用意	16	5.1%	5	4.7%	11	5.4%
7 話し相手	156	49.8%	48	44.9%	107	52.2%
8 ほめたりしかったりする	144	46.0%	49	45.8%	94	45.9%
9 学校・地域の行事への参加	120	38.3%	38	35.5%	81	39.5%
10 その他(主なご意見:①子どもが興味があることに向き合う、②人生の先輩として接する、③必要であればする等)	11	3.5%	3	2.8%	8	3.9%
有効回答者数	313	100%	107	100%	205	100%

一問12(性別・年齢別結果)あなたは家庭でどのように子育てに関わりたい(父親にしてほしい)ですか。

	男性18～29歳数	男性18～29歳%	男性30～39歳数	男性30～39歳%	男性40～49歳数	男性40～49歳%	女性18～29歳数	女性18～29歳%	女性30～39歳数	女性30～39歳%	女性40～49歳数	女性40～49歳%
1 スポーツ	3	100%	4	23.5%	36	43.4%	0	0.0%	23	31.1%	43	34.4%
2 野外活動	2	66.7%	4	23.5%	19	22.9%	2	50.0%	14	18.9%	34	27.2%
3 勉強	0	0.0%	7	41.2%	18	21.7%	1	25.0%	18	24.3%	20	16.0%
4 家の中で遊ぶ	0	0.0%	2	11.8%	8	9.6%	1	25.0%	13	17.6%	6	4.8%
5 外で遊ぶ	2	66.7%	4	23.5%	26	31.3%	3	75.0%	33	44.6%	35	28.0%
6 食事の用意	0	0.0%	0	0.0%	5	6.0%	0	0.0%	5	6.8%	6	4.8%
7 話し相手	1	33.3%	10	58.8%	34	41.0%	2	50.0%	32	43.2%	73	58.4%
8 ほめたりしかったりする	1	33.3%	9	52.9%	36	43.4%	1	25.0%	38	51.4%	55	44.0%
9 学校・地域の行事への参加	0	0.0%	5	29.4%	31	37.3%	1	25.0%	29	39.2%	51	40.8%
10 その他(主なご意見:①子どもが興味があることに向き合う、②人生の先輩として接する、③必要であればする等)	0	0.0%	1	5.9%	2	2.4%	0	0.0%	1	1.4%	6	4.8%
有効回答者数	3	100%	17	100%	83	100%	4	100%	74	100%	125	100%

自由意見記述欄に県民の皆様からお寄せ頂いたご意見(計116件)

【10代男性】(計1件)

父親も母親も関係ない。親は親だ。自分がしたことなら責任を果たすしかない。それが無理なら好き勝手なことをしてはいけない。

【20代男性】(計12件)

子育てに楽しんで出かけられるサークル活動などの案内を充実して欲しい。
学校の先生に「どんどん我が子をしかってくれ」と言える親が増えることを望む。地域の良識を持った人と接する機会を増やせると良いと思う。
サービス残業をなくすことが必要。各個人、企業の協力、行政の指導が必要。
子どもを産むのも母乳を与えるのも母親であり子どもとのスキンシップは3歳までは母親中心。逆に社会的にデビューする小学生からは父親の重要性が高まる。子どもが小さい時に父親が家事を担うことも重要な視点。
結婚したら子育てには積極的に参加したいが、今の環境では育児休暇なんて夢のまた夢。
土日もサービス業は仕事なのに、学校は土日が休みで困る。子育てしにくい。
父親が子育てをする必要性は確実にあるが、ただ漫然と「男女平等」「男女共同参画」を唱うのではなく性差や特徴を捉えた施策、取組をしなければならない。
子育ては女の方がするというイメージがあるし、男の人は仕事をしながら子育てをするのは難しい。
「仕事が忙しくて」の一言。現実問題参加は無理。子どもが寝ているときに出かけ、寝てから帰る。休みは日曜のみ。どうやって子どもと関わればよいか。
暴力や無視はしてはいけない。
一概に子育てといっても子どもの年齢により関わり方が違うと思う。多種多様な経済的支援があればよいと思う。
職場・地域の雰囲気は子育ては女性がするものという様に感じる。父親自身の意識改革も必要だが、周りの人達の意識改革も絶対に必要だと思う。

【20代女性】(計13件)

稼ぎの良い父親が働き、母親が子育てをするのが一番良い。保育園入園までは母親が子育てをすればよい。夫婦の関係を見直せば父親も子育てに参加する。
父親の子育てに関しては母親の負担を減らすことではなく、子どもとのコミュニケーションを第一の目的とするべき。
夫は職場を休んでも子育てに参加したいと言っているが、そこまでは望んでいない。職場を休めば仕事の責任を放棄したと見なされる風潮があるからだ。
子どもは2人で作った小さな命。片方に押しつけるのは身勝手。
共働きが多いから、母親だけに負担をかけてはいけない。社会での認識も父親が子育てに参加しやすい環境になって欲しい。
特に期待はしない。したいときにすればよい。
親世代は「男は外」という考え方を持っており、それが古いということをPRしないと進まない。
父母が協力して育てなければ子どもとのつながりが小さくなっていく。コミュニケーション不足にならないためにも父親の子育て参加は重要。
子育てに父母が同じくらい携わるのがごく自然と思える社会になっていったら良いと思う。育児休暇を取得すると収入がすごく減るのはどうにかならないのだろうか。
父母が同じように子育てに参加できる世の中になって欲しい。子育て＝女の仕事という感覚がまだまだある。子育て＝みんなの仕事だと思う。
子どもは父親と遊ぶことが本当に大好きなんだと感じる。他の家の子どもにとっても遊んでくれるお父さんは大人気。母親が注意してしまうような遊びも、父親は広い気持ちで見ることができ、子どもがのびのび遊んでいる。是非、世の父親は子どもと遊んで欲しい。
夫は十分に子育てに協力してくれており、感謝している。
日本の父親は忙しいと思う。子どもと過ごせる時間がもっと増えたら良いなと思う。

【30代男性】(計10件)

父親が子育てに参加できるためには経済的・精神的余裕が必要。行政が制度を作りバックアップすることが必要。
1年程度強制的に育休をとらせるくらいの制度を創設すべき。
父親が求めているのは子ども達の笑顔だ。
企業に対して、父親の子育ての重要性や大変さ等を積極的に周知すべき。
父親が子育てに参加しやすくなるように社会が変化しないと、父親の子育て参加は進まない。また、子育て助成金等を作って欲しい。ワーキングプアでも結婚・子育てができる社会を望む。

両親とも働く家庭が多い中、朝の支度、保育所の迎えなど母親に負担が多くなる。一方、父親は職場的に子育てに参加しづらい環境。子どもが小さいうちは、社会的に父親も職場から早く帰れたりする環境があれば良い。
母親と同じように子育てを出来たら良いと思う。男だからというような考え方はなくして出来ることをしていけたらよい。
全ての原因は企業が父親の育児に協力的な雰囲気を出していないことではないか。自分が体験したり見聞きしていないことに会うと否定的な人が多く、上の世代は男女協力で育児をした世代ではない。しかし、制度で縛っていくのも難しい。
子育ての大切な時期には社会においても責任が重く仕事と子育ての両立は難しい。三世代で生活できるのは理想的だが、難しい家庭もある。病気の時や子ども一人での留守番など問題点が残る。両立できるような国の支援を期待している。
父親の子育てが気持ちよく出来るように社会全体が理解・協力してくれるようになって欲しい。

【30代女性】(計31件)

夫は仕事も大変なのに子育てに本当に積極的で本当に感謝している。子育ては大変だが、夫婦してその面白さを味わえてとても幸せ。
自分の夫は子どもを甘やかしたり妻である自分の悪口を子どもに言うだけ。子育てに関わって欲しくない。
強妻賢母として、子育てと同時に父育てもしている。夫婦関係はお互いに忍耐。地域活動に夫を誘い出すような地道な努力が必要。島根の豊かな環境を子ども達に残しておきたい。
父親は仕事が忙しすぎて子育てできないし、家事を頼むのもかわいそう。
自分の夫はよく子どもの面倒を見てくれるが、食事作りもやってもらえらるとどれだけ助かるかと思うときがある。
自分の夫は小1の長男との風呂場のコミュニケーションが足りないので、心配。
もっと子育てに協力すること、母親に対してねぎらうことが重要。
母親が働いている方が多い中で、仕事を理由にして父親が全く子育てに参加しないという方が近年少なくなっているのではと思う。
父親が育休等を取得しにくい環境にあるので強制力のある制度改正を望む。子育て休暇等を取得すれば逆に給付面等にメリットがあれば取得する人も増える。
父親本人より親世代、祖父母の「母親がするもの」という意識が強すぎ、母親は力が抜けなくなる。
子育てに参加していると自負している父親でさえ、配偶者の子育てに対する精神的な負担を理解していないことが多々ある。まず母親の子育てに対するサポートをどうすればよいかを議論することが大事で、それが父親の子育てにつながっていくのでは。
父親が残業などで帰りが遅くなり、子どもと触れ合えないケースがたくさんある。家族を大切に仕事もできるという企業の評価を求める。
一人で出来た子どもではないから二人協力して子どもを育てるべき。外国の父親のように日本の父親も家のことに協力すべき。
どんな言動が子どもや母親を喜ばせたり傷つけたりするのか、そういったことを第三者から伝えられる機会があればよい。
夫婦や家族間で子ども・地域・学校の話をしたり互いにコミュニケーションを深めることで愛情が深まると思う。子どもに育てられているとふと気づいたとき「子育てって人間にとって大切なことなんだ」と思えると思う。
育児休業を民間企業では取得しにくい。有給休暇も取りにくい。
父親が子育てに関わることはとても大切だが、子どもが小さい頃は母親の存在が大きいの。父親には父親が必要な時期がある。父親は母親の心の支えになることが一番大切。子どもは母親が抱きしめ、母親は父親が抱きしめることが大切。
女性は仕事しているにもかかわらず、いまだに家事・育児は女性のすることという意識がある。男性も積極的に家事・子育てに参加して欲しい。手伝うのではなく、協力し助け合うという意識に変えていって欲しいと強く願う。
家事・育児より仕事をしている方が大変という意識を無くして欲しい。子育てをしている父親の例を見せる機会があれば関心を持つのでは。
男性の育児休暇が普及しない最大の理由は経済的な理由(育児休業中の休業補償)、仕事の事情も大きいと思う。
子どもが多いと父親には色々手伝って欲しい。父親がちょっと見てくれるだけで母親は気持ちも体も楽だと思うので、日々の生活の中でお互いがよく話して、父親に手伝って欲しいときは気軽に頼んで関わって欲しい。父親が関わることで子どもとの信頼関係ができて家族関係も良くなる。
休日の日には外に外出して思いっきり外遊びをして子どもと接してくれるので子どもも大好き。最近では優しすぎの父親が多いのでは。「父親は怖いもので尊重すべき」ということが子どもの頭の中にあると、子育てしやすいと思う。
仕事の子育ての逃げ口上になっているうちは少子化は止まらない。未経験の子育ては誰がしても大変。父親の子育ては政策として位置づけないと定着していかないとと思う。

男性の方が会社で重要なポストに置かれる率が高いことから、子育てに仕事の時間を当てるのは難しい。まず女性の社会進出に対する意識改革が先に実現してからではないか。現在、女性は社会で自分の場所を保ちにくい立場に置かれているため、家庭に入って社会における自分の位置や役割を確保している状況。
社会的に父親が積極的に子育てに参加できる体制は日本には現実的でない。もっと、休みが取りやすくなったり勤務時間を短縮したり啓発CMをしたりして父親が子育てに関われる環境を作って欲しい。
育児に協力している父親もたくさんいるが、収入の多いのは男性の場合がほとんどのため、休んだことによりもし職場に居づらくなってしまったら困ると思う。育児休暇を普通に取れるよう義務化するなどしてもらえると取りやすい。
職場の育児に対する考えが変わらない限り、母親に負担がかかり多く子どもを育てることは無理。核家族が増えているので心の支えが重要。
父親が積極的に参加してくれており、とても助かっている。2人の子ども達をかわいがっており、子ども達も大好き。しつこくしてくれる。職場が学校行事の時の休みも有休とは別に取れるようになり、とても助かっている。職場が環境を作るのが大切。
夫は育児を母親まかせな所がある。付き合いなどで連日飲みに出るが、家庭の状況も考えて欲しい。母親の負担が大きくなるから小さい時は特に困る。
凝り固まった区別を無くして、家庭の事情に合わせて柔軟な対応していけばよい。例えば、祖父母にももっと活躍してもらえれば良いのでは。

【40代男性】(計12件)

母親は子どもに必要。男女で役割分担がある。夫婦の仲は子どもに影響がある。
母親、父親にはそれぞれ必要な役割分担がある。母親が父親の仕事を理解し、その上で父親が子育てに協力していかないと子どもに良い影響が無いのではないかな。
学校のことは母親が見るとい風潮があり、母親の参加ばかりが目立つ。保護者会の役割と父親の意識が変わらないと駄目。
子どもの健全な発育のためにはしっかりと「大人」の父親の存在が欠かせない。父親の子育てがもっとできる社会になって欲しい。
妻は専業主婦のため、自分の給料で家計を支えている。仕事に追われて子育てに対応できない。
双子の父だったため、自然と子育てに協力した。子どもの成長を見守るのは苦労も多いが、楽しさが何倍もある。是非父親の方は子育てに参加して欲しい。
県の施策は全て市町村が動かしている。県も汗をかいて欲しい。
母親が甘やかして父親が叱るという役割分担が理想だが、今は母親が甘やかして叱り、父親は育児に参加しない。子どもは父親を無視し、結局そんな親になってしまう。父親に対する教育は必要。
離婚のため、父親のいない家族が多すぎる。父親が子育てする以前の問題。子どもがかわいそう。
保育料が高すぎるので、保育料のために残業している。
社会が協力すれば父親も積極的に子育てに参加できる。地方は首都圏に比べ時間的に子育てに参加している方だと思う。
昔の父親は良かった。昔は社会全体で子育てをしていた。親に威厳があった時代に戻るべき。

【40代女性】(計35件)

教える親ができていないから子どものしつけが出来ていない。
夫婦、職場、地域社会で父親の子育て参加の重要性の共通理解が重要。
父親が活動する姿は子どもも感動するはず。地域皆で父親が参加しやすい状況を作って上げるのも良い。
収入を得るために忙しい。子どもが多く余裕がない。
男は男らしく女は女らしく子どもとの関わり合いを持つべき。夫の稼ぎ、妻が家族の世話をする。夫は子どもをしっかり見ていて言うときは言うというのが理想。
地域活動は男性社会であり、仕事もあり、家庭にいることの出来ない父親が多い。社会教育の場が少なくなっているが、同世代で語り合うことが重要。
共働きの家庭がほとんどの社会では父親も積極的に子育てに参加しなくてはならない。昭和50年代までの父親は難しい人が多かった。
夫は自分の好きな子育てに参加するが、自分の興味のない分野には参加してくれないのが残念。
子育ては両親が行うのが当然の義務。地方自治体の子育て支援環境が整っていた方が父親の子育て参加は進む。
父親は子どもの心に接して欲しい。
最近の若い父親は入学式など積極的に参加しており、良い傾向。どんどん父親の子育てに参加した方が良いと思う。
父親が家庭に参加するには父親本人の意識の持ち方と企業のあり方、特に中小企業のトップのあり方による。地道に取り組んで欲しい。
現在の40～50代の父親は、自分達が父親に関わってもらったことが少なく、母と祖父母に育てられている。してもらっていないことを子どもに対してすること自体難しい。

最近の若い父親は子育てに協力的。時間的余裕を作るべき。40代より上は男だから女だからという考え方が多い。「男なのに子守させられてかわいそう」とかくれぐれも言わないで欲しい。
核家族の家庭であれば、出来る限り夫婦協力し合う関係が望ましい。地域の協力も大切。いろんな形の協力体制があれば尚心強い。
共働きのため、家にいるときは忙しく、母親である自分だけが子どもにガミガミ言ってしまう。夫にもっと相談にのって欲しい。
仕事が忙しく、ほとんどの子育てが母親担当になってしまう。ふれあう時間が少ない中で、いかに子どもと関わるかが問題。
仕事が忙しいだろうが、子育てに理解をして欲しい。それも一つの仕事だからだ。一緒に楽しんで。
家の近くに小さくても良いから充実した公園があって欲しい。
父親も子育てに積極的に参加できるよう職場での配慮をお願いしたい。
父親は母親ではなく父親としての視線をしっかりと持ち、子どもをみつめ、思いのままの子育てをすればよい。
最近の男性は自分が子育てをしていた頃と比べると子育てに参加していると思う。
公務員や大企業、労働組合がある事業所と違い、中小企業では子育て支援制度を利用できない。利用できたとしても給与減や人間関係に支障が出る。平等に利用できるよう強制力のある制度にして欲しい。
父親の子育ては入浴などの「作業」より母親が子どもにしっかり関わられるための応援、支えになることが大切。3歳頃から父親として子どもと腹を据えて対応することが役割。最近の親は自分が遊んだり楽をするを優先し、子どもの成長を喜ぶ権利を捨てている。
父親が全て母親と同じように子育てをする必要はない。父親としてできることを出来るときにやればよい。それぞれの家庭で話し合って子育てすればよい。
計画的な出産でなければ、子どもに対する愛情は継続しないのでは。
20代・30代のお父さん方は子育てに参加している。病院の付き添いや買い物など男性の数がすごく増えた。共働きで男性の家事分担ができています。その反面、離婚の増加が気になる。子育てが上手いかわいときに親がどう対処すべきか、行政で講演会等を企画して欲しい。
接する時間を少しでも長く持てるよう心がけていくのが大切。関心を持って見守っていき、変化など見つけていければ。島根県は自然が多くあり、子どもと一緒に遊ぶ場所に事欠かない。
父母お互い違うので、得意不得意なことがある。全て一緒とか半々というのは違う。それぞれをカバーしあったり、得意な面をどんどん関わっていけばよい。父親だからと力を入れすぎることはない。
父親の子育て参加は増えており、助かっている部分が多いが、「母親が子育てをすべき」という世間の目が厳しく億劫になることがある。自分もゆっくりくつろぐ時間が欲しい。同居している祖父母は子守りをほとんどしてくれない。もう少し子どもの相手をしてくれたらと思う。
子どもの日常的な事柄に関心を持つようにしたい。学校行事等に参加すると、子どもの友達や友達の父兄とも顔見知りになれ、子どもを理解する一助になる。小さい時、読み聞かせは父親の役目だった。とても楽しい思い出だ。
年配の人の「父親は家事をしないもの」などという考えを無くすことが必要。
父親の子育ては大切だが、今の経済状況を考えると、厳しい経営状況で労働時間も本人の希望は通らない。制度が整え活用できる人を念頭に置いたアンケートの意味は無い。
仕事が忙しく父親が子どもと接する時間はとても少ない。子どもの話は父親は知らないことが多い。仕事から帰ってきてから一日の出来事を伝え、相談したり意見を聞いたりしている。そういうことで支えてもらって、また子育てにがんばれる。
一生懸命働く親の背中が一番の子育て。農業や漁業のように、仕事の中身や成果が子どもにもわかれば伝わると思う。

【性別・年齢未回答】(計2件)

子どもは母親が家庭で育てるものという父親が多い。子どもがなつかないのは子どもに手をかけていないからだ。
父親が協力しないとできないことがたくさんある。何でも言える相談の出来る親になりたい。

事業全体の流れ

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
父親の参加しやすいイベント開催	究極のそうめん流し		20 打ち合わせ	7 現地下見 19 チラシ検討 25 広報スタート 29 作戦会議	11 参加者へ第一信 17 準備 20 当日 23 参加者へ第二信	1 振り返り 10 参加者へ第三信	
	ウルトラパパの絵本と子育て【子育て支援部】				12 チラシ検討 25 広報スタート	21 担当打ち合わせ 23 講師との交流会 24 当日	
	お父さんと観る舞台劇『おとうさんはウルトラマン』【鑑賞事業部】					25 広報スタート	23 書店読み聞かせ
	忍者ごっこ お城をあそぶ！【子どもサポート部】			14 現地下見	15 打ち合わせ	22 打ち合わせ	22 チラシ印刷 25 広報スタート
	旗取りチャンバラ in げきじょこまつり【子どもサポート部】						
	お父さんと観る人形劇『あなたがうまれるまで』【鑑賞事業部】						
情報発信	プロに学ぶ通信物づくり講座 & パバ通信				9 講師と打ち合わせ 10 講師と打ち合わせ	1 講座打ち合わせ 26 講師と打ち合わせ 31 当日 講座①	15 当日 講座② 12 講師と打ち合わせ 6 講座②準備
	報告書						
父親の子育てに関する意識調査					25 調査項目検討 28 調査項目検討	12 調査項目決定	発送
協働研修 県担当課との協議など	28 打ち合わせ	29 審査会	11・12 協働研修	25 打ち合わせ 29 作戦会議	9 講師と打ち合わせ 10 講師と打ち合わせ 20 イベント視察 31 調査項目検討	12 調査項目決定 24 イベント視察 31 講座視察	15 講座視察

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	6 中間振り返り					
	1 当日 5 打ち合わせ					
28 打ち合わせ	28 打ち合わせ	7 準備 9 当日	5 振り返り			
	27 実行委員会①	10 会場下見	5 作戦会議 1 実行委員会②	12 打ち合わせ 15 実行委員会③ 22 Tシャツ作り	1 当日 16 実行委員会④	
	中間振り返り			14 チケット作り 20 立て看板製作	21 関連講演会 28 語る会	8 当日 14 語る会
					14 作戦会議	
	中間振り返り				7 編集会議 28 編集会議	11 編集会議 20 打ち合わせ 22 打ち合わせ
	15 調査メキ	集計		まとめ・分析	13 調査結果共有	16 調査結果公開
9 中間振り返り 23 協働研修	9 イベント視察		17 打ち合わせ		1 イベント視察 13 調査結果共有 14 作戦会議	8 イベント視察 17 打ち合わせ 25 総括

考察

■父親の子育ての現状について

ここ数年、子どもと一緒に過ごす父親の姿を目にすることが随分増えました。少子化・核家族化が進み、共働き家庭も増える中で必要に迫られてという面もあるようですが、「子どもとの関わりが増すほど子育てに喜びを感じる」と調査結果にも出ている通り、子育てを楽しむ父親の増加は、今事業のあらゆる場面で確かに感じられました。

一方で、「子どもとどう関わっていいかわからない」と感じている父親も相当数いることがわかっています。母親主導で参加した結果、自ら楽しめず困惑気味という父親の姿も事業の中で複数見かけました。今後は、父親を大きく一括りにせず、さまざまな状況、さまざまな意識を持つ父親を区別して考え、それぞれに適した提案をしていく必要があると考えます。また、ひとり親家庭や経済的に厳しい状況にある家庭の子どもたちが支援の輪から取り残されないよう、地域全体としての子育て力を高めていくことが重要であろうと考えます。

今回の協働事業のテーマである父親の子育て参加については、全国的に非常に重要な課題となっていますが、今後推進していくためには、参加のためのハードルをいかに下げるか、どれだけの多くの魅力的なプログラムを用意できるか、母親ではなく父親が中心となって企画をしていく環境をどのように構築していくかなど、いろいろな仕掛けが必要となってくると考えています。

県担当者

■事業の組み立てについて

「イベント」「調査と情報発信」を事業の2本の柱として企画しましたが、実際の内容とボリュームから「調査」と「情報発信」を分けて、結果的には3本の柱となりました。それぞれが持つ「参加」「知る」「伝える」という要素はどれも必要不可欠であり、よいバランスであったと思います。次年度以降の事業の広がりにもつながると考えられます。

しかしながら、取り組み初年度にこれらすべてを実施するという計画は、1年で目に見える成果を出さなくてはならないという焦りから出た、かなり欲ばったものであったと思います。特に、父親発信の通信物発行と父親ネットワークの構築には相当なエネルギーと時間が必要であり、準備は進めたものの結果的に実現には至りませんでした。

また、イベントについては、新規参画者とリピーターの両方を増やすという視点を今後も大事にしたいと思います。そして、イベント参加→父親とスタッフの出会い→父親同士の出会い→父親のネットワーク構築→他の子育て支援ネットワークとの連携と、段階を踏んで進めていく必要を感じました。

おやこ劇場が中心となって実施して頂いた個別の事業はほとんどの事業で大きな成功を収め、他地域のモデル的な取組としても成果が出たと思います。

一方で、事業はおやこ劇場の活動の拠点である松江を中心に行われたため、今年度の時点では他の地域を巻き込むことは難しく、課題を残しました。県内の他も含めた子育て支援NPO法人の規模を考えても、NPO法人だけで県内全域を見ることは非常に困難であり、本事業の成果を県内全域に広げるにはNPO法人以外の関与も考える必要があると思います。

県担当者

■協働について

県の担当者がよく足を運んでくれて、課題を共有しつつ進めることができました。行政と市民活動型のNPO法人がお互いの考えや得手不得手を把握し合えたことは、将来につながる財産であると思います。県の協働事業という性格上、1年間で計画せざるを得ませんでした。事業を実施していく中で次年度以降のビジョンをも共有することができたのは大きな成果です。

事業量が多く苦労はしましたが、取り組み初年度としてスタートダッシュできたのは、協働事業であったからこそでした。行政の信頼・安定、NPOのアイデア・瞬発力・熱意でお互いを補完し合えたことが、成果に結びついたと思います。

まず、NPO法人と課題を共有して実施するという事業の実施方法そのものが非常に新鮮でした。お互いの顔や考えていることがよく見えるということは、特に良い点だと思います。県の担当としては、現場の情報を、次年度以降の予算等その他の関連した企画・立案に生かした点に最大のメリットを感じました。

県担当者

■次年度以降の広がりについて

2009年6月、松江市男女共同参画センターと共に「男女共同参画フォーラム」を実施することが決まり、既に動き出しています。「父親を楽しむ」というコンセプトで内容を企画中ですが、事業の広がりを考え、松江市を拠点とする子育て支援団体11団体のネットワーク「つながるネット松江」へも参加を呼びかけています。

今後の取り組みとして、テーマ「父親の子育て参加支援」を大きく掲げるというよりは、実施するあらゆる事業の中で常に「父親の参加」を視野に入れていくという形になるうかと思われれます。気軽に参加できるイベントから、地域の子育て支援ネットワークの構成メンバーとして父親同士をつなぐ濃い事業まで、他団体や行政、企業、そしてもちろん父親自身と情報を交換しながら進めていきたいと思えます。

最後に、来年度以降の広がりについては、まず、おやこ劇場松江センターには引き続き今年度のような良質な事業を実施し、リーダーシップを発揮して他の地域の団体を引っ張っていただくことを期待しています。県としても、今年度の成果を生かし、他の地域の団体にも父親の子育ての参加を促進するような取組が広く実施されるよう努めていく所存です。

県担当者

巻末資料

- ◆平成20年度 しまね協働実践事業「募集テーマ」
- ◆企画書【NPO法人おやこ劇場松江センター事業提案】
- ◆平成20年度 しまね協働実践事業「提案事業一覧」
- ◆平成20年度 しまね協働実践事業「採択事業一覧」

平成20年度 しまね協働実践事業「募集テーマ」

番号	テーマ	背景及び趣旨	解決したい課題	担当課
1	<p>安心して子どもを 生み育てられる社 会づくり</p>	<p>平成18年における島根県の合計特殊出生率(一人の女性が、生涯に生む子ども数に相当する。)は、1.53(全国第3位)と全国の高位にはあるものの、人口を維持するために必要な2.07を大きく下回っており、また、出生数は6,011人と10年間で800人減少するなど、少子化が進んでいます。</p> <p>少子化の進行は、経済や社会、地域の発展の可能性を根底から揺るがすだけでなく、子ども同士の関わり合いの減少などから健やかな子どもの育ちに影響するなど、島根県の将来や県民の生活に大きな影響をもたらします。</p> <p>少子化の要因としては、子育ての不安感・負担感が増してきていること、仕事と家庭生活の両立が困難なこと、若い世代の結婚観や結婚・子育てをめぐる社会情勢の変化などによる未婚・晩婚化の進展していることなどがあげられ、行政だけでなく、企業やNPO等の民間団体などのあらゆる主体が協力して、総合的な対策を推進しなければなりません。</p> <p>このため、結婚や子育てに対する若者の希望に配慮しながら、安心して子どもを生み育てることができる地域社会づくりに向けた取り組みについて、具体的な提案を求めます。</p>	<p>○子育てを社会全体で応援する気運醸成 ・多様な団体や「こころ」協賛店等と連携した実践的・継続的な取り組み ・恵まれた教育環境を活かし感性豊かな子どもを育てるための支援の取り組み(義務教育課) ・乳幼児の親に「親学」を学んでもらうための支援の取り組み(生涯学習課)</p> <p>○子育ての負担感・不安感の軽減 ・市町村の子育て支援拠点施設や子育てサロンと連携した取り組み ・子育てサロンの運営や子育て相談等の取り組み ・母子家庭や父子家庭を対象とした子育て支援の取り組み</p> <p>○仕事と家庭生活の調和にむけた取り組み ・仕事と家庭生活の調和にむけた取り組み ・父親の育児参加、仕事優先の働き方に向けた取り組み</p>	<p>健康福祉部 青少年家庭課 少子化対策室 0852-22-5302</p> <p>教育庁 義務教育課 小中学校指導 グループ 0852-22-6607</p> <p>教育庁 生涯学習課 社会教育振興 グループ 0852-22-5428</p>
2	<p>障害者の自立支 援</p>	<p>障害や障害者に対する正しい理解を進め、誤解や偏見から生じる差別を無くすとともに、障害者が住みたい地域で障害のない人と同じように安心して、自立した生活を営むことができ、地域住民と共に支え合う地域社会の実現が望まれます。</p> <p>一方、自立した生活を営むためには、就労の促進、工賃の向上、住まいの確保、移動先の情報収集、駐車場の確保といった問題を解決する必要があります。</p> <p>こうした課題を解決するため県民との連携を進めるとともに、フォーマル・インフォーマルなサービスを組み合わせ障害者が地域で自立した生活を営むことが出来る事業提案を求めます。</p>	<p>○障害者の自立した地域生活の推進 ・障害者防災マップ作成事業 ・精神障害者地域生活サポート事業</p> <p>○障害者の社会参加の促進 ・視覚障害者のための移動支援事業 ・みんなで遊ぶ島根！旅の情報提供・旅先介助事業 ・ターミナル駅における障害者、高齢者介助の仕組みづくり</p>	<p>健康福祉部 障害者福祉課 計画推進 グループ 0852-22-6526</p>
3	<p>地域の自発的な 「道の活動」「川の 活動」への支援</p>	<p>現在、本県が管理する道路延長は約3,100km、河川延長は約2,700kmにも及んでいます。近年多様化するこうした社会基盤に対する住民のニーズに対応するために、適切な維持管理が重要となってきています。その代表的な維持管理の一つとして道路のり面や河川堤防の草刈り、路上や河川内のゴミ拾いがあります。</p> <p>県が行っている維持管理は、通行時の安全に必要な箇所や洪水時の安全に必要な箇所を主として行っており、地域に密着した箇所の草刈り等については、ボランティア団体や自治会等の地域活動により行われています。</p> <p>しかし、近年、高齢化や地域結束力の低下等の原因により、活動参加人数の減少が大きな課題の一つとなってきています。一方、県政世論調査では、住民の多くがボランティア活動に対する参加意欲は高いものの活動の場が無いという理由で行われていないという結果が出ています。</p> <p>こうしたことから、今後、更に「地域の道や川は自分たちの手で！」の活動を推進するため、現在のボランティア活動の活性化や若者達の愛護活動への参加、ゴミの投棄等への啓発が必要と考えています。</p>	<p>県の管理する道路及び河川における以下の取り組みの推進</p> <p>○高齢化により人数の減少した団体へ若者等の人材派遣を行う取り組み</p> <p>○草刈機やチェーンソー等の貸出し、使用の講習などを行う取り組み</p> <p>○刈り草や刈りヨシの肥料や燃料、再生紙などへの有効利用を図る取り組み</p> <p>○子供達や若者達の道路や河川愛護意識の向上のための取り組み</p>	<p>土木部 道路維持課 道路維持 グループ 0852-22-6568</p> <p>河川課 管理グループ 0852-22-5196</p>

NPO法人おやこ劇場松江センター 事業提案

選択したテーマ	安心して子どもを生み育てられる社会づくり
団体の名称	特定非営利活動法人おやこ劇場松江センター
事業の名称	地域における父親支援ネットワーク構築事業

○この事業を提案されたきっかけは何ですか。これまでの活動と事業提案の背景を教えてください。

当団体はこれまで主に、子どもと母親を念頭に置いて「子どもたちが心ゆたかに成長できる環境づくり」を進めてきたが、その長年の活動の中で、母親同士が子育て仲間を得ることによって、子どもとの生活がより安心して充実したものになるとの確信を持つようになった。また、近年、当団体あるいは他の子育て支援団体の活動に参加する父親の数が年々増えていることから、子育て参加に対する父親自身の意識の高まりが実感され、少子化・核家族化が進み、地域での人間関係も希薄化している現代において、父親の積極的な子育て参加が、母親の不安感・負担感を軽減し、子どもの心身を健やかに育むためにも欠かせないものとなってきたことが言える。

一方、地域での父親同士のつながりは薄く、各家庭内で完結している（「子どものことを相談する相手」を「妻のみ」と答えた父親61%）場合も多く、自身が父親と関わった経験を持たず情報も少ないことから、「子どもとどう関わっていいかわからない」という声も聞かれる。また、父親が子育てに関わることの重要性についての社会的認識がまだまだ低く、「関わりたくても仕事が忙しくて関われない」と感じている父親も多い。共働き家庭の増加や、子どもが被害者や加害者となる深刻な事件・事故も多発する中、社会全体で父親の子育て参加を応援する仕組みと気運の醸成が求められている。

1 提案事業の目的	<p>①この提案事業で解決しようとする地域課題は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 子どもとの関わり方、一緒に楽しむ方法、子育ての喜びを父親が知らない。 ➢ 子育ての喜び、楽しみ方、苦勞を共感できる父親同士の仲間がいない、できにくい。 ➢ 他の子育て家庭の様子を知る機会がない。我が子のことしか知らない。 ➢ 父親が地域活動に参加できていない。地域の子どもたちと触れあう機会が少ない。 ➢ 父親の子育て参加を支援する気運がまだ低い。 ➢ 父親が子育て参加しやすい施設・設備等が整っていない。 <hr/> <p>②その地域課題をどのようにして解決するのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 子どもと共に参加し、優れた講師や子育ての達人と触れあう中で、子どもとの関わり方や一緒に楽しむ方法、子育ての喜びを楽しく学ぶ。 ➢ 父親が、我が子や他の子育て家庭と、感動や楽しみを共有できる場や学び話し合える場（野外活動、絵本の読み語り、人形劇等の鑑賞、語る会等）を設定する。 ➢ げきじょっこまつりに父親グループの企画・運営によるお店（遊びのコーナーなど）を出すことにより、父親同士の子育て仲間作りを促す。また、その出店が地域の子どもたちや母親たちに喜ばれ感謝されることにより、地域活動のおもしろさを知る。 ➢ キー・パーソンとなる父親を発掘し、その後の地域活動へと広げていく。 ➢ 「パパ通信」や報告書を関係各所に届け、Webやテレビ・新聞等を活用して事業を広く配信することにより、父親の子育て参加を応援する社会的気運を高める。 ➢ 父親の子育て参加を支援する情報（パンフレット等）を行政・専門機関・企業などから広く募り、参加者に配布する。 ➢ アンケート調査により、父親の子育て参加をしにくくさせている理由や地域社会の実情を知る。また、調査結果を関係各所に届ける。 ➢ 保育士など、親が初めて関わる「子ども関係者」の参加や視察を促すことにより、保育園や幼稚園単位の父親参加の取り組みへと広げていく。 <hr/> <p>③上記の目的・効果以外に想定する効果は何ですか。（副次的な効果を記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 母親の不安感・負担感・孤立感が減り、子どもの健全な生育環境が整う。 ➢ 夫婦の絆が強まり、家庭不和や離婚家庭が減る。 ➢ 夫婦が子育てを楽しめることにより、もう1人人生んでもいいかなと思えるようになる。 ➢ 子ども達の心身の健やかな発達のために、文化・自然体験や家族友人と感動を共有することの重要性が認識される。 ➢ 当団体の活動に参加している父親たちの連帯感が増し、団体がさらに元気になる。
--------------	---

提案事業の2本の柱

- 子どもとあそぶ体験を通した父親のネットワーク作り
- ◆父親の意識と子育ての現状調査 及び 情報発信

● 子どもとあそぶ体験を通した父親のネットワーク作り

① 世界遺産の麓であそぶ・つくる・たべる！

内容：竹林の手入れを教わる、竹林であそぶ、竹で工作、火起こし、流しそうめん
日時：7月20日（日）10時～15時
場所：大田市久利町小山地区
対象：小学校6年生までの子どものいる家族20組

【父親が子どもと一緒にやりたい活動アンケート 第1位～4位複合】

② お父さんのための読み聞かせ講座 & 絵を描いてみよう

絵本作家による
内容：■お父さんのための絵本読み聞かせのすすめ
■子どもたちが宮西氏と共に絵を描くワークショップ
講師：宮西達也氏（パパの奮闘ぶりを描いた絵本『おとうさんはウルトラマン』作家）
日時：8月24日（日）10時～12時
場所：松江市総合文化センター大会議室
対象：読み聞かせ…4歳以上の子どもと父親・母親、プレパパ・プレママ、保育士等
ワークショップ…4歳以上の子どもと父親30組

【父親が子どもと一緒にやりたい活動アンケート 第5位】

③ パパと観る舞台劇『おとうさんはウルトラマン』&語る会

- 内容：パパの奮闘ぶりを描いた舞台劇『おとうさんはウルトラマン』鑑賞
講師：劇団うりんこ
日時：10月1日（水）18時半～20時
場所：松江市総合文化センター プラバ大ホール
対象：4歳以上の子ども、おとな、保育士等
- 内容：作品を観た感想などを語り合う、子どもと遊ぶ
日時：10月5日（日）11時～15時
場所：松江市市民文化祭会場（松江市総合文化センター前広場）
対象：『おとうさんはウルトラマン』を観た人

④ イメージあそび忍者修行“お城をあそぶ!!”

内容：■子どもとおとなが一緒になって、お城を舞台に忍者修行あそびを楽しむ
■父親・講師・スタッフの大交流会
講師：NPO法人あそび環境Museumアフタフ・バーバン
日時：11月9日（日）10時～12時
場所：松江市城山公園
対象：小学生とその父親25組&小学生50人

【父親が子どもと一緒にやりたい活動アンケート 第3位】

⑤ パパのお店 in げきじょっこまつり

内容：父親グループによる「遊びのコーナー」の企画・運営
日時：1月31日（土）午後、2月1日（日）10時～15時
場所：くにびきメッセ大展示室
対象：事業に継続して参加してきた父親グループ

⑥ パパと観る人形劇『あなたがうまれるまで』&語る会

内容：■子どもが生まれる時の感動を描いた人形劇『あなたがうまれるまで』鑑賞
■作品の感想、子どもが生まれた時の感動を語り合う
講師：くわえぱべっとステージ&人形芝居ひつじのカンパニー
日時：3月8日（日）14時～15時、16時半～17時半
場所：島根県民会館多目的ホール
対象：4歳以上の子ども、おとな、保育士等

◆ 父親の意識と子育ての現状調査 及び 情報発信

(ア) アンケート作成・実施・分析・まとめ (7月～1月)

全県の子育て家庭を対象とし、子育て中の父親の意識や子育ての現状を調査する。調査により地域の子育てに関する課題を抽出し、次年度以降、あるいは他地域での取り組みに発展するよう、情報を関係各課と共有する。調査の結果を関係各所に届ける。

(イ) 『パパ通信』発行 (9月・1月)

事業の経過を報告すると共に、参加者の声や専門家のコメント等を盛り込み、父親の子育てを支援する気運を高める。公民館、子育てサロン、子育て支援センター、小児科・産婦人科等、書店、自動車販売店等で配布してもらうことにより、子育て家庭及びその周辺に情報を届ける。当団体のHPを利用してWeb配信する。

(ウ) 報告書作成・配信

事業の総括をし、他地域での取り組みの参考となるようにまとめる。

●実施スケジュール (準備作業、県との協議の予定等も記載してください。)

	事業	準備
20年4月		(協)担当課との協議
5月		
6月	●①流しそうめん父親企画会	お城をあそぶ!!会場下見 世界遺産の麓で…事前準備
7月	◆(ア)調査項目検討 ●①流しそうめん	(協)アンケート作成会議 (協)県職員への広報
8月	◆(イ)新聞作り講座① ●②宮西達也氏ワークショップ	宮西氏読み語り事前準備
9月	◆(ア)調査実施(～10月) ◆(イ)新聞作り講座②	通信1編集会議 舞台劇鑑賞会準備
10月	●③舞台劇鑑賞&語る会 ◆(イ)新聞作りワークショップ・通信1発行	(協)担当課との中間協議 お城をあそぶ!!事前準備
11月	●④お城をあそぶ!! ◆(ア)調査結果集計・分析	(協)アンケート集計・分析(～1月) げきじょこまつり・パパ企画会①
12月		通信2編集会議
21年1月		げきじょこまつり・パパ企画会② げきじょこまつり準備
2月	●⑤げきじょこまつり ◆(ア)新聞作りワークショップ・通信2発行 ◆(ウ)評価、報告書作成	人形劇鑑賞会準備 報告書編集会議
3月	●⑥人形劇鑑賞&語る会 ◆(ウ)事業報告・調査結果報告会	(協)評価

3
提案事業における協働の内容等

①協働により高められる相乗効果は、どんな点にあると考えていますか。

- 子育て家庭の現状や父親の子育て参加をしにくくさせている原因を島根県全域で調査することができる。
- 子育て支援・子どもの健全育成支援・少子化対策等の、子どもと子育て家庭を取り巻く課題に取り組む行政とNPOとが、課題・情報・目的を共有することができる。
- パパ通信、報告書等により、父親の子育て参加を支援する情報を県内全市町村に広く発信することができる。
- 父親の子育てを応援する気運を、当団体やその近隣の特定地域内だけではなく、島根県全体という広域で盛り上げることができる。
- 子育て中の当事者の集まりである当団体の特性を活かし、県の事業を、現状やニーズをより明確に反映させたものとする事ができる。
- 父親の子育て参加を推進するために必要な、社会の気運醸成と、地域での受け皿となる父親ネットワーク作りを同時に進めることができる。
- 行政の広報力や信頼性、当団体は子育て家庭を会員に持つという互いの強みを活かし、単発のイベントに終わらせず、メンバーの継続した参加を促すことができる。

	<p>②貴団体と県（担当課）は、どのような連携・役割分担を行って事業を協働で実践しますか。協働で行う連携や役割分担について具体的に記載してください。</p> <p>県と連携して</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢子育て家庭の実情及び意識調査 項目決定、実施、分析 ➢事業前、事業中間、事業後の情報共有、振り返り ➢評価 <p>当団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢事業の運営全般 <p>担当課</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢広報 ➢県の持つ子育て支援情報の提供 ➢県内の他の父親グループについての情報提供 ➢各市町村へ、パパ通信・報告書を配布 ➢県のTV広報番組での紹介と報道 ➢県HPでの【パパ通信】配信 <p>③事業実施に当たって、市町村や実施地域とはどのような連携等を行いますか。県以外の協力団体・市町村等関係機関についてもその役割等があれば記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 松江市：広報、子育て支援・両立支援の情報提供、情報共有 ➢ 子育て支援センター・市立図書館、市民活動センター、公民館等：広報、情報提供 ➢ 大田市久利町小山地区自然放牧の会：野外活動の会場・情報・技術等の提供 ➢ NPO法人あそび環境Museumアフタフパーバン：全国の父親子育て支援情報の提供 ➢ 新聞・テレビ：広報・取材・報道 ➢ 産婦人科・小児科：子育て家庭への情報発信 ➢ 保育園・幼稚園・小学校：子育て家庭への情報発信 ➢ 書店：書籍の紹介・販売 ➢ 京店商店街：広報
<p>4 提案事業の 先進性・実効性</p>	<p>①提案事業のアピールポイント（創意・工夫された点等）は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 父親と子どもが楽しむだけでなく、父親同士が横につながることを重視した。 ➢ 単発のイベントではなく、同じメンバーがくりかえし活動を共にすることで、父親同士の横のつながりを強化できるようにした。 ➢ 参加者同士が共感を得やすくなるようにするため、各事業の特性や効果を考慮し、子どもの年齢ごとに対象者を絞った。 ➢ より主体的に活動できるよう、企画の段階から父親自身に参加してもらう。 ➢ 簡単な事前アンケートを取り、子育て中の父親の現状や関心を調査した。 ➢ この企画自体を、父親たちに相談しながら立てた。 <p>②実施上の懸念事項はありますか。またその解決策は考えていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ キーマンとなる父親たちは働き盛りの忙しい世代で、日程が合うか。 <ul style="list-style-type: none"> → 事前に休みの状況などを調べる。 ➢ 地域で初めての企画なので、父親たちの意識がついてこられるか。 <ul style="list-style-type: none"> → 家族の活動として参加しやすいようにする。 → 父親のための企画であることを明確に打ち出す。 → 事業の意義をまず母親たちに理解してもらい、参加を後押ししてもらう。 → 企画の意義・楽しさが伝わる効果的な広報・チラシ作りをする。
<p>5 提案事業の地域 への拡がり と継続性</p>	<p>①今年度の活動をどのようにして地域へ拡げますか。来年度以降の継続についてどのように行っていきますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 全県アンケート調査の結果を報告書にまとめ、県内各地域での子育て支援・少子化対策事業に活用できるようにする。 ➢ HP上で、事業終了後の報告だけではなく、経過も含めて発信していく。 ➢ 「パパ通信」・報告書を関係各所に届ける。掲示してもらう。 ➢ 報道機関の協力をもらう。 ➢ げきじょっこまつりの「パパのお店」を定番とする。 ➢ 当団体の地域ブロックを利用し、参加者が各地域で父親のネットワークを作れるようにする。
<p>6 事業の執行体制</p>	<p>提案事業を実行するための執行体制を記入ください。（統括責任者、業務ごとの責任者、業務分担など具体的に記入ください。）</p> <p>個人名を挙げているので、掲載を控えます。</p>

平成20年度 しまね協働実践事業「提案事業一覧」

テーマ	事業の名称	団体名	所在地
安心して子どもを社会づくり 安心して子どもを社会づくり 自立支援 「道の駅」の活動の支援 「道の駅」の活動の支援	地域における父親支援ネットワーク構築事業	NPO法人おやこ劇場松江センター	松江市
	子育てってたいへんだよね・・・でも？プロジェクト事業	特定非営利活動法人しまね子どもセンター	大田市
	「松江・京店カラコロこころサンデー」集いと交流事業	松江京店商店街協同組合	松江市
	こころフェスタ事業	ハートでつながりドラマサークルしまね	大田市
	ほのぼのの・子供がいても働ける！家庭・職場・地域で支える安心子育て事業 (職場内傷病児・学童保育)	NPO法人緑と水の連絡会議	大田市
	自然環境を生かした父親と子どもの遊び場作り事業	斐川こども応援団(てんと虫)	斐川町
	居場所を核とする若者支援事業	特定非営利活動法人YCSスタジオ	松江市
	だれもが安心して育ち・育てることのできる地域づくり事業	益田市保育研究会	益田市
	「テレビを消して見えるもの」ノーテレビ運動の推進事業	島根の子どもとメディアを考える会	松江市
	障害者の旅をサポートする人的ネットワーク形成と情報発信事業	特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい	松江市
	障がい者支援のための啓発用 防災マニュアル「育む・守る・地域で考える防災(仮称)」映像制作と啓発事業	日本防災士会島根県支部	川本町
	「道と川でつながる人の輪システム」構築事業	特定非営利活動法人ハウル	雲南市
	自然と友に！快適で美しい有木生活環境整備事業	隠岐NPOセンター準備会	隠岐の島町
	長浜花いっぱい運動事業	長浜花と緑の銀行	出雲市
	浜乃木 花みち事業	株式会社エブリプラン	松江市
	飯梨川河川敷 自然再生・有効活用事業	NPO法人自然再生センター飯梨川流域部会	安来市

平成20年度 しまね協働実践事業「採択事業一覧」

テーマ	事業の名称	事業概要	実施団体名 (所在地)	申請額 (事業費)
安心して子どもを生み育てられる社会づくり	地域における父親支援ネットワーク構築事業	地域における父親の地域参加をすすめるために、意識啓発イベント、仲間づくりの活動の実施。共働き家庭の増加や、子どもが被害者や加害者となる深刻な事件・事故も多発する中、社会全体で父親の子育て参加を応援する仕組みと気運の醸成を図る。 ・子どもと遊ぶ体験を通して父親のネットワークづくり ・絵本の読み聞かせ講座、親子での工作体験活動等 ・父親の意識子育ての現状調査・情報発信(パブ通信の発行)	特定非営利活動法人 おやこ劇場松江センター (松江市)	2,000 (2,050)
	子育てたいへんだよね...でも？プロジェクト事業	子育て拠点施設と連携した野外遊び・アートスタート事業の展開や支援スタッフの研修会による子育て支援を実施。 ・子育て当事者、支援者を対象とした学習会の開催 ・子どものいい顔発見プログラム ・野外遊び「おそとであそぼ」「はじめてのおしばい」 ・支援スタッフスキルアップ研修会の開催	特定非営利活動法人 しまね子どもセンター (大田市)	2,000 (2,075)
	ほのぼの・子供がいても働ける！家庭・職場・地域で支える安心子育て事業(職場内傷病児・学童保育)	高齢者グループホームを拠点とし、施設職員や住民の参加を得て、地域の支え合いで病児保育・学童保育を実施し、仕事と家庭が両立する環境づくりを行う。 また、支えあいの仕組みに地域通貨の導入を検討する。 福祉施設を拠点とした生活支援、就労支援の取り組みとして地域の助けあいによる安全な子育て支援のモデルとする。	特定非営利活動法人 緑と水の連絡会議 (大田市)	1,600 (2,540)
だれもが安心して育ち、育てることのできる地域づくり事業		子育てへの負担感・不安感の大きい障害児を育てている親、ひとり親、外国人の親を対象として、休日に親子が気軽に交流できる場を提供し、交流を促進するとともに相談に応じ、子育てへの負担感、不安感の軽減を図る。 ・障害児を育てる親と子、ひとり親家庭、外国人の親家庭等に、親子交流の日を開催。 ・障害児のいる家庭、ひとり親家庭、外国人の親家庭などへの地域の理解や支援を広げるため、講演会を開催。	益田市保育研究会 (益田市)	1,985 (2,880)
	障害者の旅をサポートする人的ネットワーク形成と情報発信事業	障害者の社会参加を促進する観点から、障害者の旅行に必要となる、旅館や観光スポット、公共交通などを含めた総合的なバリアフリー情報の提供、移動介助に必要な人的サポートの仕組みづくりを行う。 1.県内における旅のバリアフリー情報の収集と情報発信 ・宿泊施設等のバリアフリー情報ホームページの制作、PR ・弱視・全盲の方向けの観光パンフレット等の制作 2.宿泊施設、飲食施設へのバリアフリー研修 3.旅先介助(人的サポート)の仕組みづくり ・しまねを旅する障がい者サポートネットワーク構築 ・観光ボランティア組織等に対する研修の実施	特定非営利活動法人 プロジェクトゆうあい (松江市)	2,000 (2,217)

<p>地域の自発的な「道の活動」「川の活動」への支援</p>	<p>自然と友に！快適で美しい有木生活環境整備事業</p>	<p>県道池田中町線沿道と有木川沿川の美化活動、緑化活動を実施し、この対価について地域通貨の導入を検討する。また、地元小学校と連携した環境学習会やホテル学習会を開催するとともに、これらの取り組みを地域に広報し、河川愛護の意識啓発と地域の連携を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県道沿い・川の堤への植栽 ・小学校と連携した水質調査・生態調査の環境学習会 ・小学校と連携したホテル学習会(飼育、幼虫の放流) ・事業紹介かわら版の作成 	<p>隠岐NPOセンター準備会 (隠岐の島町)</p>	<p>1,992 (1,992)</p>
<p>浜乃木 花みち事業</p>	<p>乃木駅口一タリ、乃木停車場線、浜乃木湯町線の歩道近及び隣の事業所の花プランターを設置し、乃木駅周辺の花回廊づくりに取り組む。 この作業を浜乃木の自治会、事業者、農林高校に参加を呼びかけ、地域環境改善運動への参加者の拡大や、住民の道路愛護意識の醸成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乃木駅周辺に花プランターを設置 ・沿道の清掃、花の管理 ・事業紹介パンフ作成 ・駅利用者を対象とした満足度調査の実施 	<p>株式会社エブリプラン (松江市)</p>	<p>1,992 (1,992)</p>	
<p>飯梨川河川敷 自然再生・有効活用事業</p>	<p>往年の住民と地域畜産農家及び川の自然の共生環境への回帰、循環型の河川敷植生環境を取り戻すため、河川敷を整備し、牧草地の造成・牧草の育成刈り取りを行い、地域畜産農家への自給飼料の安定供給システムを創る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯梨川河川敷で竹、雑草の伐採・整地 ・牧草播種、育成管理 ・牧草刈り取り、畜産農家への配布 	<p>特定非営利活動法人 自然再生センター 飯梨川流域部会 (安来市)</p>	<p>2,000 (2,141)</p>	

平成20年度しまね協働実践事業
「安心して子どもを産み育てられる社会づくり」
地域における父親支援ネットワーク構築事業 報告書

発行日 2009年 4月

発行者 特定非営利活動法人おやこ劇場松江センター
〒690-0843 島根県松江市末次本町32番地
TEL/FAX 0852-22-4937

E-mail oyakomatsue@yahoo.co.jp

URL <http://enjoy.oyakomatsue.com/>

デザイン 須山広子

印刷 株式会社 谷口印刷